

通し番号	中学校区	No.	大項目	小項目	分類	未回答	質問内容	回答
1	東中学校区	1	再配置の方向性	小中学校の再編			<p>小・中学校を中心とした地域公共施設の再配置は、効率的とは思いますが、学校になじめないお子さんやそのご家族へのフォローも十分にお考えいただけるのでしょうか。バリアフリー化も推進されるのでしょうか。</p>	<p>学校施設は教育の場ですので、子供のことを当然第一に考えていかなきゃいけないと思います。まず、安全・安心の学校でなければいけないということになります。また最近では、いじめや不登校等のたくさんの方がいます。そういったことについても、しっかり対応できるように考えていかなければならないと思います。</p> <p>それから、特別支援、発達障害のお子さんも全国的に増えております。そういったこともしっかり加味してバリアフリー化も当然進めていかなければならないと思っております。あと、先程いただいたご質問と回答の中で、少し付け加えてお話をさせていただきたいと思っております。小中一貫教育を、全市的に進めていくということを申し上げました。その中でやはり、将来、掛川市を担う子供達、未来を担う子供達が、どういった大人に育って欲しいかということを考えていった時に、ある程度の規模の学校がないと、人数が揃っていないと国や県が求める教育もそうですが、これから力強く生きていく、そういった力、生きる力と我々は言いますが、なかなか身に付いていかない。さらに、社会情勢がどんどん変化しております。これに追い付いていくだけでも本当に厳しい世の中になってきていると思っております。そういった時代をしっかりと見据えた上で、子供の教育を行っていかなければならないと思っております。市内全域として教育委員会が考えているのは、小規模校、単級学級校については適正規模・適正配置の考えと小中一貫の考えと合わせて再編の案件として検討しているところでございます。そうなってくると、先程も質問ありましたけれども、特に遠いお子さんについての配慮、学校に馴染めないお子さんへの配慮、また、いろいろな問題が生じてくることも考えられます。そういったものを十分に対応できるように検討して進めていきたいと思っております。</p>

2	東中学校区	2	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	<p>現状、小中学校の立地場所のアンバランスがあると思われるが（掛一小・城北小など）、統合などを行う場合、どの場所を選ぶのか。その考え方は？</p>	<p>中学校区の中でも、非常に小学校同士が離れているというところもあるだろうし、立地場所のバランスが悪いというところもあるかと思います。今後、再編に伴って学校をどこに設置するか、学校施設だけではなく、先程言っているような、その地域に必要とされる他の施設も再編に絡んできます。そういった条件によって、再編する場所も変わってくると思います。アンバランスになっていった場合は、子供達の負担がないようにスクールバス等も配置して負担をかけないように考えていきたいと思っております。</p> <p>実際はもう一点大きな問題でございます。議会の中でも教員の不足ということで今の働き方改革で話題になっていると思います。教員の働き方がどうなのかということで問題になってかと思いますが、実はこの小笠・掛川地区だけでなく、全国的に教員が不足しています。特に地方へ行けば行くほど、数が少ないという感じがあります。静岡県内の教員の場合は、県の採用になりますので、県が合否を決めて配置をするということになっています。新聞等でご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、静岡県の採用倍率は3倍を切っています。これは本当でないことであって、それを埋めるために県も色々対応しているわけですが、これはどういうことかと言うと、教員の資質の問題になるかと思いますが。県にしてみれば良い教員が雇えないという状況になるかと思いますが。そういった状況の中で、掛川市内はどうなのかということですが、掛川市内の小中学校で掛川市出身の先生が以前は6、7割いたのですが、現在4割ちょっとでここ数年で激減しています。県内の大学だけではなく、県外を含めて今後教員を希望している数、こういったものを私は情報を集めているわけですが、なかなか掛川市から大学へ進んで、教員免許を取って戻ってくるというのが少し不安な状況であります。そうすると掛川市外から先生に来ていただいて、今6割弱ですけれども埋めて教員が仕事されているということになるわけです。これは教員に限らず、色々な職種で人不足と言われているかと思いますが。教員についてもそういう状況で県内の中でも、この掛川市は教員不足で少し悩んでおります。小学校になりますが、なかには70歳過ぎの方をお願いをしてなんとか教壇に立っていただいているという状況もございます。今後、やはり子供のことを考えた時に、きちんとした、なるべく子供にも年齢の近い先生に力をつけて、教壇に立って未来を担う子供に教えていただきたいと思いますが、現状としてはそういった施設だけではなく、教育確保の問題もあるということ知っていただきたいです。これ東中学校区だけの問題ではございません。承知いただければと思います。</p>
3	東中学校区	3	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	<p>学区単位の考え方、東中の場合、旧掛川町、上内田村、南郷村、東山口村と歴史が違う、例えば大東、大須賀の単位の考え方が異なるのでは？</p>	<p>学区単位の考え方についてのご質問だと思いますが、学校再編を行うにあたり、東中の場合、旧掛川町、上内田、南郷、西山口、地域にそれぞれの歴史があり地域性も異なると思います。</p> <p>全体で見ますと、東中学校区は掛川市の中心部、市街地の学校になるかと思いますが。当然、山間部、沿岸部、大東・大須賀の地域と比較すれば、考え方も地域性も異なりますので、そういったことも踏まえて再編を考えていかなければなりません。</p> <p>学区の考え方というのは、現在の中学校区ベースの中で、どのように学校再編するかということをお教育委員会は考えています。どうしてもその枠に入らない場合は、他地区や他の中学校区への変更をするということもあると思います。今後、そういうところも含め検討していきたいと思っております。</p>

4	東中学校区	4	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	<p>小学校は小学校で1校に集約、中学校は中学校で1校に集約するのか。それとも小学校・中学校をまとめて1校として建物を集約するのか。</p> <p>1校に集約すると生徒の通学に時間がかかる地域が出てくるのではないのでしょうか。</p>	<p>現在2年目になりますが、初年度は教育委員会だけで再編について考えました。今年度は教育委員会と消防局側の環境整備部局、大学有識者（第三者）といった方々を交えて研究会を立ち上げ検討を進めています。これから子供数が減っていくということは、東中学校区だけではなく、全学的・全国的な傾向にあります。それに伴って、小学校の再編だけではなく、新たな教育を目指して小中一貫教育を充実させていくことも併せて検討しています。</p> <p>皆様が一番心配するのは、おそらく施設の老朽化が進み子供達は大丈夫なのか？子供数が減っていて大丈夫なのか？ということだと思います。特に施設のことよりも、教育の中身が低下することがあってはいけないということで、教育委員会としては今後20年間で施設を再編・再築することを考えていくと、やっぱり中身に差があっては困りますので、そこのところを先行して研究しています。掛川区域（北部）では、原野谷学園（原野谷中学校区）、それから大東区域（南部）では、城東学園（城東中学校区）で小中一貫教育の研究を進めています。そのような研究を土台にし、中身のところについては、しっかりとした掛川型の小中一貫教育ができるように研究を進めております。そのソフト面を充実させると共に、今後ハード面のご質問があった小中を一緒にするという点については、他施設と複合化していくという方向であるとなれば、その地域のこういった施設と複合化していくのが良いかという要素も入ってきます。それによって、小中で一緒にしていくのかということが決まってくると思います。その中でご意見として、1校に集約すると生徒の通学に時間がかかる地域も出てくるのではないかとありますが、当然集約をしていくと施設に近いご家庭、遠い家庭と出てきますので、遠いご家庭については現在スクールバスを配置している学校がありますけれども、そういったことも含めて検討をしていくところであります。</p>
5	東中学校区	5	再配置の方向性	その他		<p>市長交代時の取り扱いは？</p>	<p>本計画は今後50年間の計画期間としております。また、10年ごとに1期から5期まで区切り、各施設ごとに地域や利用者等の関係者の皆様と協議しつつ段階的に取り組んでまいります。</p>
6	東中学校区	6	説明会	説明内容		<p>東中学校区内の施設の再配置方針を資料3で具体的に説明してほしい。</p>	<p>太枠で囲ってない施設は現在のところ継続使用するという計画です。中央消防署については、建設したばかりなので継続使用していきます。板沢最終処分場は、赤枠ですので1期10年以内に廃止を検討していきます。和田団地は、他の市営住宅団地と合わせて統合を検討し黄枠ですので、今後20年間で統合を検討していく計画となります。また、宮脇第2団地及び仁藤団地は青枠ですので、今後30年から40年の間に統合を検討する計画となっており、その他の太枠で囲っていない施設は今のところ継続使用していきます。上内田のここにこひろばについては、黄枠ですので、今後20年の間に譲渡を検討していきます。たまりーなは、赤枠で囲ってあり建物自体は継続使用しますが、温水プール及び温浴施設がかなり老朽化をしていることも含め、今後10年間で廃止を検討していきます。東部ふくしあは、今後20年間で複合化を検討し、地域生涯学習センターや小中学校、学童保育所については、今後20年間で施設の統合・複合化を検討していきます。しかしながら、これは施設を一つにするのか、どうするのかという問題については今後検討していきます。最後に、赤枠のこだわりっばや大手門駐車場、駐輪場等は今後10年間で民間へ譲渡を検討する計画となっています。</p>
7	東中学校区	7	検討の進め方	市民意見	合意形成	<p>配布資料に対する質問は今回限りか。</p>	<p>今、説明をさせていただいた資料に関して、ご質問・ご意見はなかなか直ぐには出ないこともあろうかと思っております。市のホームページ上でアンケートを実施しておりますので、そちらでお答えをいただいたり、21-1167が担当しております企画政策課のFAX番号になりますので、そちらへご意見・ご質問をいただければと思います。なるべく皆様のご質問・ご意見をいただきたいと思っておりますのでご協力の程お願い申し上げます。</p>

8	東中学校区	8	再配置の方向性	その他		再配置や複合化を行うためには、それなりのスペースや新たな複合化に対応できる施設やスペースが必要になると思いますが、その場合、それなりの財源が必要になると思いますが、財源を含めどう対応するのか。	今回の再配置方針につきましては、基本的には耐用年数が到来した時に、施設の複合化等を進めていく計画になっております。先程申し上げましたが公共施設再配置計画の中では、今後50年間で公共施設の整備・再整備をする費用が2,034億円と試算をしております。2,034億円という試算の中で不足する財源を補うために、今回約25%の面積を減らしていこうという計画を立てております。当然、ご質問にありましたように新たな投資をしていくことについては、財源が必要になってまいりますので、見直しを進める中で運営経費や財源コストを削減する中で、費用の捻出をしていくことを想定しております。財源には色々なものがございますので、それについては当然確保を進めていくことを予定しているところであります。
9	東中学校区	9	再配置の方向性	個別施設	健康	具体的な再配置案について、その理由がわからなかったので知りたい。（ふくしあはほとんど残すのに、つどいの広場は譲渡する。なぜふくしあは譲渡できないのか。）	ふくしあは現在市内に5ヶ所ございます。ふくしあにつきましては、市が設置、それから運営を担って管理している施設でございますので、すぐに譲渡は難しい施設であります。それからつどいの広場につきましては、今、運営していただいております方々、利用されている方々が更に利用しやすい形、利用しやすい施設にしたいというものでございます。そういうことから掛川市の施設として運用していただくよりも、民間に譲渡してその中でお使いいただく方が、利便性が高まるのではないかとこの考え方で譲渡という方向性を出させていただいております。
10	東中学校区	10	検討の進め方	市民意見	合意形成	説明会が今後も計画されているか。用途別に分類されているが、用途別の対象者にも説明すべきと思う。	地区説明会が本日第1回目でございます。これからの説明会の開催等については未定でございますが、掛川市では皆様から多くのご意見をいただきたいと思っておりますので、ホームページ上のアンケートや電話、メール等でも、たくさんのご意見をお知らせいただければと考えております。また、各施設の事業化に関して事業を進めていく時には、実際の作業中も具体的に実施していく段階の際は、個別案件ごとに地域や利用者の皆様のお声を聞きながら、協議しながら具体的に進めていきたいと考えております。
11	東中学校区	11	検討の進め方	情報共有		広報掛川に何ヶ月かごとに掛川市の各公共施設の活用状況・維持管理費・人件費等をデータとして紹介してもらえると、その施設のこれからを自分の市のこととして、より深く考えることができるようになると思うがどうか。	掛川市は今、申し上げました施設について公共施設カルテという形で利用状況や収支状況をまとめております。ホームページの方で公開を検討しておりますので、近いうちに公開できるのではないかと考えています。広報掛川につきましては、10月号にこの公共施設関係のことをお知らせさせていただいております。ご覧いただければと思います。
12	東中学校区	12	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと		公共施設の多少について、何を基準にすればいいのか、具体的な説明をお願いします。（財源不足のみを理由にされている）	掛川市の公共施設につきましては、建物系の公共施設面積がおおよそ45万㎡ございます。それで人口1人あたりにしますと、3.88㎡ということになって、県内では5番目に多い面積になります。1番から4番目は熱海市、御前崎市ですとか掛川市よりも人口規模の小さい都市ということになります。掛川市につきましては、同程度の人口規模である三島市や島田市の公共施設面積が、35万㎡以下であるのに対して、掛川市は先程申し上げました45万㎡とやや多い面積となっております。また、掛川市よりも人口が多い富士宮市ですとか焼津市、藤枝市のほうの面積も35万㎡以下であります。そういうような比較の中でも、掛川市内の公共施設面積はだいぶ多いのではないかとこのことをお解りいただけるのではないかと考えています。

13	東中学校区	13	再配置の方向性	個別施設	地域生涯学習センター等		地区センターはすべて統合し、1カ所に集約とした場合、1カ所としたセンターについては相応の面積・規模を確保することになるのか。	現時点では、地区センター等のまち協の活動拠点については、再編後の小中学校への複合化を考えております。場合によっては、一つの学校に複数のセンターを統合する可能性もございます。現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地域で共同利用することで、1地区では持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも使いやすい施設にできるのではないかと考えております。とは言いましても、この施設の検討につきましては、地区ごとに事情を考慮しつつ、地域の皆様と協議しながら慎重に進めていきたいと考えております。
14	東中学校区	14	再配置の方向性	個別施設	市営住宅		団地の入居者が極端に少なくなった場合、検討時期を早めることは可能か。	先程の説明にありましたように、この再配置方針（案）につきましては、10年単位で見直しをしていく予定でおります。そのため、その時々入居状況等を見ながら、見直しを行っていきたいと考えておりますので、検討時期を早めるという可能性もございます。そういうことでご理解をいただければと思います。
15	東中学校区	15	検討の進め方	その他			担当課とのすり合わせはどこまであるのか。	資料3にありますような公共施設の再配置案を作成するにあたり、当然、庁内担当課とのヒアリングは1年前前から続けております。なので、庁内連携については図れているものと考えております。
16	東中学校区	16	再配置の方向性	交通手段			統合・集約のメリットは頭では理解できた。しかし、施設が減るというイメージがするが、高齢化になるにあたり、施設までの便が気になる。利用しやすいと言っているが限られた利用者だけになってしまうのではないか。	先程申し上げましたように、移動手段は当然、施設との距離が長くなれば、市として検討していかねばならないと思います。現在、協議会の方でも移動手段の円滑化を進めていただいたり、あるいは教育長から話がありましたように、スクールバスを使ったり、あるいはスクールバスを昼間の時間帯に高齢者の方々に乗っていただいたり等、そういうこともこれから検討していくことで計画は予定しているところであります。
17	東中学校区	17	再配置の方向性	財源不足	試算		掛川市を取り巻く状況：まとめの課題1から3までであるが、その中で課題2の厳しい財政状況に関して、財政支出の適正状況も課題にあげるべきでは。	行財政改革につきましては、平成21年度から掛川市は随時進めております。財源を確保するために、持続可能な行財政運営となるための取組を進めてきております。先ほどの説明の中で扶助費のこと、それから社会保障費のこと、そういったところばかりのご説明であったかもしれませんが、当然、掛川市全体予算額470億円の枠の中でこの投資を進めていくということになります。これにつきましては、ご質問にありましたように適正な財政運営というものはその前段のこととして、市としては常に注意していることでご理解をいただけたらと思います。
18	東中学校区	18	再配置の方向性	財源不足	試算	○	30億の不足は、いつからいつまでの想定か。	平成28年3月に策定した「公共施設等総合管理計画」において、公共施設の将来更新費用を試算しました。その試算によると、今後50年間（2016年～2065年）に今ある公共施設を維持更新していくのにかかる費用は1年あたり約70億円かかります。それに対し、現在の建設投資額や過去からの推移や今後10年程度の財政状況の推計を基に維持更新費用に充てられるお金がどの程度かを推計しました。その結果、今後の介護や医療等の社会保障関係費用の増加等を考慮すると、維持更新費用に充てられるお金は1年あたり約40億円程度と推計しています。維持更新費用が70億円かかる一方、財源が40億円であり1年あたり平均30億円の財源不足が生じます。

19	東中学校区	19	再配置の方向性	個別施設	地域生涯学習センター等	○	<p>Ⅱ期統合、複合化計画で、各センター（東中学校区）が対象になっているが、広範囲すぎて簡単に利用できなくなるのではないか。</p>	<p>現時点では、地域学習センター等のまち協の活動拠点は、再編後の小・中学校への複合化を考えています。場合によっては、1つの学校に複数のセンターを統合する可能性もございます。現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地区で共同利用することで、1地区ごとでは持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも更に使いやすい施設にできると考えています。</p> <p>しかしながら、個々の統合・複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと思っております。</p>
20	東中学校区	20	再配置の方向性	小中学校の再編	通学	○	<p>Ⅱ期統合、複合化計画で、掛一小、西山口小、上内田小、東中となっているが、通学方法はどのようなのか。</p>	<p>施設までの距離が遠くなってしまう場合、児童・生徒に関してはスクールバスでの対応が考えられます。地域ごとに施設を集約し地域拠点とすることで、一定の需要を集めることができ更にスクールバスと兼ねることでバス路線を創出・維持することにも繋げたいと考えております。</p>
21	西中学校区	1	再配置の方向性	目標設定	根拠		<p>30億円の財源不足を解消するため、延床面積を25%縮減するとの目標があるが、これはどのような計算式で導き出されたのか。</p>	<p>本日は、皆様に細かい計算の資料をお配りしておりません。これについては、市のホームページに掛川市公共施設再配置方針というものが掲載されております。その資料に計算式が詳細に掲載されております。もしよろしければ、本日の次第の下にQRコードが付いておりますので、そこからホームページの方をご確認いただければと思います。</p> <p>また、今日のご質問をいただきました方でご希望がございましたら、お帰りの際にお寄りいただければ、その資料をご提供したいと思います。先程申し上げましたように、50年間の更新費用の見込み額、維持管理費、運営費の縮減可能額等を50年間にして計算しております。詳細につきましては、資料をご確認いただければと思いますのでよろしく願いいたします。</p>
22	西中学校区	2	説明会	説明内容			<p>資料3で使われている統合の意味は、まとめて1つの施設を新設するという意味か。</p>	<p>これに関してはケースバイケースとお答えさせていただきます。基本的には、施設は耐用年数まで使うことを前提としており、建替時に統合を進めていく考え方であります。ただ、例えばですが、3つの施設を1つにするというお尋ねについては、3つの施設が2つになる可能性もあります。それから具体的な統合の検討の中で、現在の施設が使用可能である場合は継続して使用していきたいということです。個別の実施事案に至っていない状況ですので、具体的なお答えはし兼ねます。このように3つを1つということだけではありませんが、またその時点でご協議をさせていただきたいと思っております。</p>

23	西中学校区	3	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的	小学校の統合について考えているのか。	<p>小中学校全体を見る中で、学校再編する中で統合することも当然考えております。なぜ、そういうことを考えるかと言うと、先程の全体へのご説明でもありましたように色々な条件、理由があるわけですが、教育委員会で一番考えていることは子供達の将来、未来の子供達のためにできることは何かということです。国や県の政策もございりますが、やはり掛川市の地域で育った子供達の特徴を生かして、伸ばしていくことも考えなければならないと思っております。それにプラス、これから人生100年時代ということになりますので、長い期間、子供達は時代を生き抜いていかなければならない。国がよく言うのは生きる力なのですが、生きる力だけではなかなか人生100年乗り越えていくことができないため、掛川市では目標や方針を決めて、未来に立ち向かってより強く生きる力を育ていかなければならないということで色々な研究を進めております。</p> <p>小学校では英語教育が一部始まっています。来年度から完全実施になりますが、これからグローバルに生きていく力が必要となります。逆に、地域の中で活躍できる子供も同時に育成していくところも教育委員会として考えていかなければならないと思っております。学校再編のことに合わせながら、ハード面とソフト面と両方を研究しているところです。もう少し付け加えますと、先程から言っておりますが掛川型小中一貫教育を進めるということで、来月11月から北部にある原野谷中学校区（原野谷学園）と言いますが、それと南部へ行きますと城東中学校区（城東学園）と言いますが、その2つの学園で3年間小中一貫教育について研究しております。それについて11月に発表する予定となっております。ご興味ある方はそこで研究・実践の発表がありますので、お越しいただければと思っております。質問に戻りますが、小学校の統合については、ありますということです。よろしくお願いいたします。</p>
24	西中学校区	4	検討の進め方	市民意見	合意形成	利用者、住民の意見・意向はどのタイミングで聞かれますか。	<p>説明会の他にも市のホームページ、あるいは電話、FAXメール等で、多くの皆様のご意見をいただければと思っております。また現在、市のホームページ上にWebアンケートを掲載しております。ぜひご回答いただければと思っております。</p>
25	西中学校区	5	検討の進め方	市民意見	合意形成	住民の意見を聞いて検討するとのことだが、より多くの住民の意見を聞くためにどのような方法を考えているのか。	<p>それぞれの各施設の事業化の段階につきましては、実際の再配置を事業化する際に、個別案件ごとに地域や利用者の皆様等と協議しながら、具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。皆様のご意見については、丁寧に対応させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
26	西中学校区	6	検討の進め方	市民意見	合意形成	今後の地区への説明はどのような方法で行うのでしょうか。	
27	西中学校区	7	再配置の方向性	個別施設	地域生涯学習センター等	地域学習センター、小学校、学童保育所を1カ所に集中統合させるのか。	<p>既存の公共施設では対応しきれない市民ニーズが、増加するのではないかと予想されております。これは、少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化に伴ってということではありますが、統廃合や複合化の再配置は、それらの市民ニーズに対応した新たな公共施設サービスを構築する機会と捉えております。</p> <p>現在の施設よりも複数の地区で共同利用する、あるいは1地区では持てなかった大きい施設を整備できたりすることが効果としてあるのではないかと考えております。具体的なプランになっていないということで、イメージしにくいというご質問ではありますが、共通利用というのは詳細に議論を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>

28	西中学校区	8	再配置の方向性	縮充			「縮充」で施設サービスの向上を図るというが、例えばどのような手段、方策でサービスの向上が図られるのか。イメージがあまりわいてこない。	例えば、地域学習センター等のまちづくり協議会の活動拠点は、再編後の小・中学校への複合化を考えています。場合によっては、1つの学校に複数のセンターを統合する可能性もございます。現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地区で共同利用することで、1地区ごとでは持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも更に使いやすい施設にできると考えています。 しかしながら、個々の統合・複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ、各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと思っています。
29	西中学校区	9	説明会	説明内容			中央小学校の築12年とは、どのような意味ですか。	カラー刷りの資料4をご覧ください。公共施設の再配置案説明資料です。(2)個別施設の表記、①の各施設基礎情報というのがございます。ここの囲み枠の中に築年数が掲載されているわけですが、注1のところがございますが施設に複数棟ある場合「築年数」欄は、棟ごとの面積による加重平均値表示とさせていただいております。 詳細につきましては、本日配付させていただきました資料5の4ページ。そこに中央小学校がございます。西中学校区ところに中央小学校の表記がございますが、こちらに築年数、それから一番右側に面積(m <sup>2</sup> )が記載されていますので、それを加重平均という形で表記をさせていただいております。
30	西中学校区	10	再配置の方向性	その他		○	今回の提案の中に水道施設が入っていないが、各地で問題となっている水道施設の老朽化も含めるべきではないか。市の水道の現状はどのようなになっているのか。	再配置方針では、「市が管理している原則200m <sup>2</sup> 以上の公共建築物(196施設)」を対象としており、水道施設等のインフラ施設は対象外となっております。水道施設の長寿命化等については、担当部署において平成28年度に「水道ビジョン」を策定したところでございます。
31	大浜中学校区	1	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと	機能		廃止または譲渡される施設の利用者は、これまでの利用とどう変わるのか。サービスの低下はないか。	統合、複合化により各施設が担っていた機能はできるだけ低下しないようにしていきたいと考えております。譲渡については、民間の活力によりサービスの維持または向上を目指していきたいと考えております。
32	大浜中学校区	2	再配置の方向性	防災	防災拠点		公共施設で避難所、避難場所として利用できる施設はあるか。	防災上の関係、安全・安心の事は大変重要なことだと思います。個々の再編を検討する場合には、防災拠点をどのようにしていくかということについて具体的に検討していきたいと思っておりますので、今後検討するというご理解をいただきたいと思っております。
33	大浜中学校区	3	再配置の方向性	交通手段	防災拠点		公共交通政策では、29年度を起点として32年度を1期としており、すでに3年目に入っており、「これから検討する」というのは、どういうことか。	例えばスクールバスですが、色々な時間帯、一般市民の皆様や高齢者の皆様の移動手段として使っていただくということを検討していきたいということを回答させていただきました。ご質問の29年度を起点としたというのは、公共交通網形成計画のことをおっしゃっているのかと思っております。これにつきましては、全市的に今あるバス路線を維持、存続していく計画の内容となっておりますので、現行の公共交通網形成計画については、そのような路線の維持ということを主眼に進めているところでありますので、ご理解をいただきたいと思っております。
34	大浜中学校区	4	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと	防災拠点		施設の長寿命化のスタート時点のレベルは確保されていますか。	レベルというのは水準ということなのではないでしょうか？機能とことなのではないでしょうか？継続すべき施設につきましては、計画的に修繕を行い、長く使えるようにしてまいります。それから安全レベルの維持については、もちろんありますが確保してまいります。長寿命化というのはそのような考え方で進めていきたいと思っております。



35	大浜中学校区	5	再配置の方向性	財源不足	防災拠点	毎年30億円が不足とのことですが、現在も不足しているのか。計画実行しても不足の解消は50年後となるのか。	今後50年間で既存施設をそのまま更新していくと、必要な費用と予算を比較した時に1年あたり平均すると30億円の不足となります。実際に建替が必要な時期は、施設によって異なり、様々になりますので、その時期に合わせて計画を実行することで常に不足が生じないように努めてまいりたいと考えております。
36	大浜中学校区	6	再配置の方向性	交通手段	防災拠点	小中が統合した場合、遠方の児童の通学にスクールバスを考えることができるか。公共施設統合の場合、公共交通の少ない地域では高齢者（弱者）の利用が大変となると考えられるがその対策は？	公共交通が少ない地域では、高齢者、弱者、そういった方々の利用に大変不便になります。そこに関して考えているかというご質問であると思います。今から統合になると、地区によっては少し今までより学校が遠くなる地区も出てくるかと思えます。そういった地区の子供達に対しては配慮が必要になりますので、先程から出ていますスクールバスも検討しますし、その地域に路線バスが走っていれば定期で通う対応も考えていきます。スクールバスを走らせるということになれば、当然子供だけではなく大人まで高齢者、弱者、そういった方々の利用もできるように配慮をできるように検討していきたいと思っております。
37	大浜中学校区	7	再配置の方向性	小中学校の再編	防災拠点	小学校、園の統合により、通学が遠くなるが、安全等をどう考えるか。	先程、千浜小学校の統合のこともご質問があったわけですが、千浜小学校に限らず、市内全域で小学校に限ると13校が対象になってくると思います。全体の中で、どう再編していくかということで、子供の数が減ってくることによって、教育的な支障というところが色んなところで出てきます。子供数だけじゃなくて、今、社会全体に大人でも業種によってはかなり人不足というような状況が起きております。実は学校の中でも、教員の数が非常に不足しているという状況です。これは全国的にそうですが、その中でも静岡県内でもこの掛川市はここ最近急激に減ってきておりますので、色々な対策や対応を今現在もしているところです。ここ10年・20年と先を見ていった時に、そういった子供の数だけではなく学校の中で子供達を指導できる人材のことについても、しっかり考えていかなければならないと思っております。当然、指導するにはやっぱり中身ですね。未来の子供達、地域や掛川市や日本を担う子供達をいかに育てるかということもそういった大きな視点に立ちながら、今の掛川市の教育がどうあるべきかということもずっと検討していく中で、小中一貫教育ということを進めようとしております。この大浜中学校区でも、小中一貫教育をどのように位置づけ、進めたいかということも併せて検討し統合ということについて考えていきますので、その点、お時間もかかるんじゃないかと思えますけれども、そういった方向にいるということをご承知おきいただきたいと思います。

38	大浜中学校区	8	再配置の方向性	小中学校の再編	防災拠点	<p>学校再編するのはいいが、子供がイジメにあった場合、学校の先生がまともな対応をしてくれるとは思えません。イジメにあってしまう生徒のための逃げ道も作ってくれますか。（他市の私学へ転校するしか道はないかもしれませんが…）</p>	<p>神戸市で起きた教員のいじめ、それは非常にショックを受けております。言語道断というか、あってはならないことなのですが、そんなことが実際に起きています。子供のいじめだけではなく、大人の方のいじめも社会の中で起きているというのは非常に残念です。いじめが起きないような社会づくりというのをやらないといけないわけですが、子供社会の中でも当然、教育委員会、学校教育の中で進めていかなければならないことで、これまでも努力はしてきています。</p> <p>これからの世の中、本当に色んなことがスピードアップして進んでいく中で、正直、全てに対応できる、またそれについて指導していくことは十分なところまでいかないことも場合によっては、すぐに対処できないようなケースも確かにございます。掛川市内では、こういったいじめに遭ってしまう児童生徒のために、南部の地域になりますと大東支所の4階にいじめとは限りませんが、学校へ行けないような状況である子供達をみどり教室と言いますけれども、学校からこちらの方へ来るように指導していただいて、子供達のまたは親御さんの相談を受けながら、学校へ戻れるような支援をしております。その他にも相談活動・支援活動もしているわけですが、今後も新しい学校施設を造っていくにあたりましては、そういったいじめだけじゃなくて不登校等の問題もありますし、虐待という家庭的な問題もございますので、そういったことも色々考えながら、そこの学校施設にはどんな複合化が望ましいか、そんなことも併せて検討し対応できるようにしたいと思っております。</p>
39	大浜中学校区	9	再配置の方向性	小中学校の再編	防災拠点	<p>千浜小学校の存続は？</p>	<p>今、3地区で説明会を行っておりますが、市内に31校ございまして小学校は22校ございます。その中の11校が現在、1学年に1クラスしかありません。私ども単級学校、小規模校とも言いますがそういう状況でございます。</p> <p>千浜小学校は確か5年生が2クラスで他は単級学級の状況だと思います。このままいくと2年後に単級学校となると推計しております。具体的な人数で申し上げますと、現在千浜小は178人の児童がおりまして、通常学級7クラスです。あと特別支援学級が2クラスございます。そういう状況ですが、今の0歳児が小学校に入った時、令和7年度になります、その時には現在の推計で158人、6学級になります。全ての学年が1学年1学級ということになります。これは千浜小学校に限らず市内全体の子供さんの数が、減ってきているということになります。大浜中学校区全体で見た時、今現在、大坂小、千浜小、大浜中の子供が現在896人おります。それが令和7年度になりますと769人。ということは約100人以上の数が減るというような状況になっております。従いまして千浜小学校の存続はということですが、昨年からは市内小中学校全体の学校再編を考える上で、基本的には単級学級というのは再編の中で統合していくという考えで色々な案を検討している状況であるということになります。</p>
40	大浜中学校区	10	再配置の方向性	小中学校の再編	防災拠点	<p>子供の安全はどう守るのか。</p>	<p>亀山市や松阪市の事例を見てのご質問だと思います。今日お示した2つの先進事例につきましては、どちらも共通しているのは地域の方でしっかり子供を守ること、もちろん学校側からも守れるようにセキュリティの強化、そういったものも進めていると思います。この事業とは違うもっと先進的な大阪市の事例も見てきました。まちづくり協議会が中心となって、学校の共用スペースに常駐し登園・登校の時には危険箇所や心配なところは子供について行くという取り組みをしているところでございます。学校において、子供の安全ということについては今後、当然その地域性もございまして色々な危険箇所や危険なケース、色々検討しながら子供の安全を第一に考えていきたいと思っております。</p>

41	大浜中学校区	11	説明会	説明内容	防災拠点	事例	再配置事例の紹介にあった方向で掛川も進めているのか。	もちろん統一的な基準で全市的に再配置方針を定めております。この中では、もちろん地域の機能縮小という考え方をベースに地域の皆様のご意見をいただきながら、協議をして進めていきたいと考えております。
42	大浜中学校区	12	再配置の方向性	縮充	防災拠点		複合施設のコストカット面は理解できるが、世の中に現状ある複合施設の注意点はないのか。利点ばかりで、うまく運用できていない点も聞き出したい。	我々がお聞きするところによりますと、施設の整備にあたってはよく協議・調整が行われずに施設の複合化がなされた場合には、運用が上手くいかないと聞いております。実際の事業化につきましては、個別の案件ごとに関係者との協議・調整が鍵を握ると考えております。 先程、他市や他県の事例のご紹介をしましたが、こちらも非常に長い期間、地元の皆様と市教委等で話し合いを持ちながら、あのような施設を整備したと伺っておりますので、この点については丁寧に行っていきたいと思っております。
43	大浜中学校区	13	再配置の方向性	縮充	防災拠点		「縮充」の意味がわからない。	公共施設の再配置には財政的な理由がありますが、それだけではないと考えています。少子高齢化の進展や社会経済状況の変化により、既存の公共施設では対応し切れていない市民ニーズが今後増加することも予想されます。そのため、今回の再配置についてはそれらの新しい市民ニーズに対応した新たな公共施設サービスを構築する機会であると考えています。
44	大浜中学校区	14	再配置の方向性	財源不足	防災拠点		毎年30億円の不足というが、不足となる根拠を示してもらいたい。	今回の将来更新費用の試算では、現在保有する施設、これは民間も含めてでございますが、削減等の対策をせずに既存の施設数や規模のまま維持していく場合、1年あたり102億5000万円の費用が見込まれております。このうち、上水道会計や公共下水道会計、いわゆる基本的に市民の皆様からいただいた税金を投入しない会計を除きますと、およそ70億円が必要となっております。一方で、近年の建設投資額の状況のもとに道路の拡幅等の施設改良や新規事業の実施、今後の社会保障関係費等の増加を考慮しますと、既存施設の維持更新費用に充てることのできる財源は40億円になってまいります。 これらについては、公共施設等総合管理計画というものを掛川市では、平成28年の3月に策定しております。もしよろしければ、市のホームページにも掲載がございますので、そちらの計画書の33ページに今触れたような内容がございますので、ご覧になっていただければと思います。また、インターネット接続環境が無いようでしたら、企画政策課の方にお問い合わせいただければ、資料提供させていただきますので、よろしくお願いいたします。
45	大浜中学校区	15	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと	防災拠点		各中学校区の人口密度を知りたい。(ただし山などの面積は除いてもらいたい)	大浜中学校区につきましては、本日の資料6に色が塗ってあります。資料の下に左から二つ目のところに人口密度がございますので、こちらのところをご確認いただければと思います。 それから、大浜中学校区以外の中学校区の人口密度の関係、こちら本日の大浜中学校区と同じような資料を各中学校区で配布をさせていただいておりますが、今後ホームページ等に掲載することを検討していきたいと思っております。もう一点の山林の面積を除いてということですが、森林の面積を除いて可住地面積ということだと思っておりますが、少し検討させていただきたいと思っております。そのような算出も可能かどうかも含めて検討させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
46	大浜中学校区	16	再配置の方向性	個別施設	防災拠点		千浜西農村改善センターは、他地区の公民館、センター機能を担っています。廃止の方針と伺いましたが、この機能はどう代替していく考えですか。	学校あるいは学童保育所については、学校再編の枠組みの検討は再編された新たな学校を拠点として、公民館機能やまちづくり協議会等の地域活動に必要な機能、それから学童保育所等の複合化を含め、地域の皆様と協議させていただきながら検討していきたいと考えております。

47	大浜中学校区	17	再配置の方向性	計画の見直し			地震、台風の災害があった時の計画はどうか。	この公共施設の再配置方針計画につきましては、10年ごとに社会経済情勢や市民ニーズの変化や計画の進捗状況等を踏まえて、見直しをしていく予定でおります。ただし、大規模な災害等があった場合に、大幅な計画変更が必要となる時には10年に限らず計画変更等していきたいと考えております。
48	大浜中学校区	18	再配置の方向性	個別施設	防災拠点		シートピアはこの先、維持できるのか。お風呂を楽しみにしている人がたくさんいると思う。	今回の再配置方針についても持続をするために、譲渡先を検討していくことでご理解をいただければと思います。
49	大浜中学校区	19	再配置の方向性	個別施設	防災拠点		シートピア等の施設について、譲渡先が見つからない、応じない場合は市で運営していくのか。	現在のところ、譲渡という公民連携の推進を考えております。見つからない場合は、再度検討をしていくこととなります。
50	大浜中学校区	20	再配置の方向性	各地域の平等性	防災拠点		計画を見ると、大浜中学校区が特に、10年以内に統合または減築という施設が多いと思う。南部地域における公共サービスの低下が心配。「住みやすさ」調査の結果でも南部地域の人達の満足度は低いのに、ますますそれが増えるのではないか。	先程、縮充という言葉でご説明させていただきましたけれども、人口が減っていくという社会経済情勢の中で、これについても縮充という方針の中で機能を充実していく、新しいサービスに対応できるような施設としていく、それから必要な機能については維持をしていくという考え方をしております。
51	大浜中学校区	21	再配置の方向性	縮充	防災拠点		場所が離れた施設の統合のイメージがわかりません。詳しく説明してほしい。	例えばですが、今回の公共施設の再配置につきましては、地域の拠点を学校に集約するという考え方をしております。例えばですけれども、まちづくり協議会の活動拠点については、地域の振興の核となるような施設を真ん中に集めていき、集めることによって機能的に一つのまちづくり協議会だけでは確保できなかった機能（広くなる等）を高くしていきたいという考え方でございます。
52	大浜中学校区	22	再配置の方向性	跡地・空き施設	防災拠点		公共施設を廃棄した場合に、土地（市有地）が必ず売れるとはかぎらないと思います。そのときの対応はどうか。	安全な管理を続け譲渡先を探していきたいと考えております。
53	大浜中学校区	23	検討の進め方	その他	防災拠点		再配置計画は、今現在誰が決めて、案を作成しているのですか。商工業者も案作成に加わっていますか。	掛川市の中で企画政策課を中心に全庁で、もちろん産業労働政策課等とも意見調整をしながら施設の管理については1年程ヒアリングを行ってきたところであります。商工業者の方もというような意見もございますので、今後、これについては色々なご意見をお寄せいただきたいと思いますし、利用者の方ですとか地元の関係者、それぞれにまたご意見をいただくことを考えておりますのでよろしくお願いいたします。
54	大浜中学校区	24	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと	防災拠点		公共施設というのは、住民の福祉増進のためという、重要な役割があると思います。マネジメントの視点として、経済効率（財政事情）が中心となっていないでしょうか。福祉の増進という視点は、どのようなマネジメントが行われているのでしょうか。	先程のご説明の中で「縮充」という言葉を使わせていただいておりますが、面積的には少し小さくなりますけれども、機能としては充実をしていきたいという考え方であります。少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化によって、既存の公共施設では対応しきれっていない、新しい市民ニーズが今後増加することも予想されます。従いまして、今回の再配置につきましては、それらの新しい市民ニーズに対応した、新たな公共施設、新たな公共サービス構築をする機会ということで考えているところでございます。

55	大浜中学校区	25	再配置の方向性	その他	防災拠点		掛川市の住みやすい町づくりの方針に対し、公共施設が統合・減少することにより、住みやすい町になるのか。魅力ある町になるのか。	
56	大浜中学校区	26	再配置の方向性	個別施設	防災拠点		美感ホール、生涯学習センター、文化会館シオーネの統合が検討とありますが、地理的に離れていて利用しにくくなると思うが、やむを得ないのか。統合を実施するにあたり、要望を受ける機会等はあるか。	<p>要望を受ける機会等はあるのかということにつきましては、実際の再配置を事業化していく段階で、個別案件ごとに地域の皆様や利用者の皆様等からご意見をいただいて、また関係の方と協議しながら具体的な検討を進めていきたいと考えております。</p> <p>それと距離の離れている所の統合のイメージが浮かばないということですが、美感ホール、生涯学習センター、文化会館シオーネについては、先程の資料4の一番右側、黄色の部分、用途ごとに全市的に配置を検討する施設として位置づけをしております。そのようなことから、いわゆる文化ホール、市民ホールにつきましては、先程の説明の中で広域的な利用というものをお話させていただきましたけれども1市で持つべきものか、あるいは複数の自治体で運営すべきものか、あるいは全市的に必要な規模は？それから機能は？という視点で、耐用年数がきた段階で再編の方向を検討していきたいという考え方でありますのでよろしく願いいたします。</p>
57	大浜中学校区	27	再配置の方向性	跡地・空き施設	防災拠点		廃止施設の解体はしますか。	原則、解体を考えております。
58	大浜中学校区	28	再配置の方向性	交通手段	防災拠点		高齢者の利用のための足（車等）はどうするか。	一つの方法ですが、例えば、学校が遠くなるということがありますと、スクールバスという可能性が出てくると思います。そういった時にバスを昼間の時間帯や小学生・中学生だけではなくて、一般の市民の方や高齢者の方にも使っていただくということも、これから検討をしていきたいと考えております。
59	大浜中学校区	29	説明会	説明内容	防災拠点		検討時期の記載がない施設はどうなりますか。	資料3の大浜中学校区の場合、浜野会館と千浜会館がオレンジ色の枠で囲まれております。こちらに関してのご質問であると思われます。検討時期の記載が無いものについては「継続」となります。長寿命化を図りながら丁寧に使っていききたいと考えております。
60	大浜中学校区	30	再配置の方向性	防災	防災拠点		各小学校は広域避難所となっています。再配置後、余剰施設となった場合、原則として解体または譲渡となり、住民が安心して避難できる場所が遠くなるのではないのでしょうか。	個々の再編を検討する際には、防災拠点をどのようにしていくかも同時に検討してまいります。
61	大浜中学校区	31	検討の進め方	その他			大きな問題で、短時間では理解できない。すべての事案について、企画のみで作成したものですか、精通したコンサルタントに相談した案ですか。	<p>精通したコンサルタントにも相談させていただきながら、市役所の中の担当課全てで庁内横断的な形で再配置案を作成しております。再配置案の作成にあたりましては、担当課等もヒアリングや協議を約1年以上かけて行っておりまして、庁内連携が図られた状態で再配置をお示しているところでございます。</p> <p>学校関係のこと、教育委員会でも学校再編のことを検討しておりますが、これは教育委員会だけで考えているわけではございません。当然、消防局の関係のところ、それと大学の研究機関も入れまして研究を進めております。色々な課題がございますので分析しながら検討しているところでございます。</p>

62	大浜中学校区	32	再配置の方向性	小中学校の再編		○	<p>現在、進んでいる城東中や原野谷中については、統廃合という方向です。再配置の実践事例にあるような、地域住民の福祉向上になるような複合化ではないと思いますが、その点で見解を伺います。</p>	<p>城東中と原野谷中は、掛川市教委が3年間の研究指定をしております、小中一貫教育のカリキュラム研究を行っております。明日は原野谷中（原野谷学園）で研究発表がございます。城東中（城東学園）については、来週の金曜日の8日に城東中学校で研究発表を予定しております。どちらも、教育のソフト面（内容）の方を中心とした研究をしております。研究は教育のソフト面（中身）的などところになるわけですが、今ご質問いただいた、施設の統廃合また複合化ができるかできないかということになってきますと、ハード面的なことになろうかと思いますが、これまで二つの学園につきましては、それぞれ新しい学園づくりということで地区の検討委員会を立ち上げまして1年ほど検討してまいりました。</p> <p>その結果、それぞれの学園とも、小中一体型の学校施設または小中隣接型の学校施設となっております。できる限り色々な他の施設も絡めていけると良いというご意見もいただいているのですが、教育委員会としては、その時点では今日のような事例、亀山市や松阪市のような施設を、教育委員会の方でこういった施設をとすることは申し上げられませんので、その時点では教育施設を中心に検討を進めておりました。先程説明がありましたように、今後、学校施設（市内の小中学校全て）の再編を考える中で、地域の方々も利用できる学校施設、そういった施設にするためには、その地域・学校に何が必要なのかということを検討していきます。城東中、原野谷中は統廃合だけで終わりというわけではないということは申し上げておきたいと思っております。</p>
63	大須賀中学校区	1	検討の進め方	情報共有			<p>痛みを伴う再配置。地区の痛み、行政の痛みは何か。具体的にリスト化できればリスト化し、対応を考えるべき。</p>	<p>統廃合や複合化を進めていくと、地域がますます寂れてしまうのではないかとご質問もありました。施設自体は延床面積を減らしていきますので、減ったり少し遠くなったりするかもしれませんが、地域ごとに施設を集約して地域の拠点とすることで、今よりも地域に賑わいや交流を生み出し、地域のまちづくりの核とすることを目指していきたいと思っております。少し施設が遠くなるということにつきましては、先程申し上げましたようなスクールバスでの対応等、住民の足の確保という点を今後検討していきたいと思っております。</p> <p>※ 色々な手段や地域拠点の機能については、ご相談させていただきたいと思っております。</p>
64	大須賀中学校区	2	再配置の方向性	立地			<p>少子高齢化が急速に進んでいる。高齢者の利用出来る範囲も十分考えた配置をしてほしい。公民館、図書館などについて。</p>	
65	大須賀中学校区	3	再配置の方向性	その他			<p>マイナス面の補完、サービス維持のため、地区に期待していることは何か。</p>	<p>今日も区長会の皆様を通じて説明会の開催をお願いしたわけですが、市の方針について今日お話を聞いていただきまして、皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。それを基に掛川市では公共施設の再配置計画を策定していきたいと思っております。</p> <p>先程申し上げましたように、市ホームページ等にもご意見を寄せていただければと思います。あるいは、それぞれの地域を通じてでも結構でございますので、ご意見をいただければと思います。</p>
66	大須賀中学校区	4	再配置の方向性	少子高齢・人口減少			<p>将来の人口増加については、どのように考えているのか。学校をなくすより子供達を増やしてほしい。そのために頑張っていたきたい。</p>	<p>掛川市第二次総合計画では2040年に人口12万人に回復させようという計画を立てております。そのために、子育て環境の整備や人口増加策等もろもろ推進していこうということを進めております。これにつきましては、そのために頑張っていたきたいということでありますので、お答えについては人口が増えるように、子供達が増えるような政策を進めていきたいと考えております。</p>
67	大須賀中学校区	5	再配置の方向性	少子高齢・人口減少			<p>少子高齢化について、具体的対策は？</p>	

68	大須賀中学校区	6	再配置の方向性	縮充		資料3で大須賀支所は1期10年の中で複合化を検討と示されています。すでに大須賀支所は農協、交流センターや南部ふくしあが複合化されており、南館も3つのまちづくり協議会が活用しています。計画案では子育て支援と保健医療、福祉施設欄を見ると、上記施設に加えて、Ⅲ期(2039~2048年)において複合化する児童館、老人センターも計画の中に入っています。また、30年、40年、50年と遠い先までの計画は現実的でないと思います。「複合化」の言葉の概念=コンセプトを聞かせてください。	公共施設の再配置には財政的な理由がありますが、それだけではないと考えています。少子高齢化の進展や社会経済状況の変化により、既存の公共施設では対応し切れていない市民ニーズが今後増加することも予想されます。 そのため再配置については、それらの新しい市民ニーズに対応した新たな公共施設サービスを構築する機会であると考えています。基本的には耐用年数が到来した時に施設の複合化等を進めていく計画としています。また、個々の複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと考えております。
69	大須賀中学校区	7	再配置の方向性	個別施設	大須賀	大須賀支所、中央公民館、図書館の複合化のイメージを持ってない。もっと具体的に説明してほしい。	こちらについては、一つの施設として、一つの敷地として施設の管理をしていくやり方と、これを全部一つの建物にするやり方がございますので、これにつきましても、これからご協議をさせていただきながら、どういう形になるか考えていければと考えております。
70	大須賀中学校区	8	再配置の方向性	縮充		「複合化」、「統合」とは具体的にはどういうことか。統合、複合化した施設を新しく造るのか、縮小して1つの施設に入れるのか。	複合化と言いますと、違う種類の施設を一つにするということです。 統合というのは、例えば小学校ですと、二つの小学校を一つにすることを統合で使い分けをさせていただいております。これにつきましては、一体で一つの建物にする場合と、別の建物でも1ヶ所に集まっていれば、それを一つということで管理する場合もございます。 また、統合や複合化施設を造る場合は、両方のパターンが考えられます。実際に実施する場合に、先程も申しましたとおり関係の皆様と協議をしながら、どういう施設のあり方が良いのかということを考えていければと思っております。
71	大須賀中学校区	9	再配置の方向性	その他		今、国でも県でも「公共施設再配置」の方針のもと、進められています。静岡県においては当地域に大いに関心のある横須賀と池新田高校との統合問題もその1つです。この問題がどうなるかはわかりませんが、地域への県アクションが見えません。市はこの計画に当たって、県のとっている姿勢と同じでは地域市民は納得できません。そのためには、どのように市民に寄り添っていくのですか。	まずは県のアクションについては、新聞をご覧になった方はご存知かもしれませんが、伊豆の伊東高校が、そちらの再編の作業をしているということで、横須賀高校と池新田高校の再編の作業につきましては、今後、検討されていくということです。当然、県の教育委員会の方からも説明会等が今後あると思いますが、ただ直ぐではないようにも聞いております。県の方である程度、再編計画を決めた中で、また皆様へご説明があるのでないかなと思います。 市の対応ですが、横須賀高校は地域に非常に根ざした高校と認識をしております。それから、高校はそれぞれ定員があります。横須賀高校は一時期は低かったのですが、今は定員を超えているという状況であります。これは、やはり地域の産業の担い手や人材となっておりますので、皆様生徒さんに期待しているということを聞いているところであります。市の方では、この問題が起こったのは一昨年だと思っておりますが、直ぐに市長を先頭に県の教育委員会の方に存続の要望を事ある事としてきました。それから、PTAを中心に横須賀高校を守る会も結成していただきました。社外活動もしていただき県教育の方に存続の要望をメーカーサイドから、関係者からも非常に積極的に行っているという状況でございます。これからも市の方では、横須賀高校を守る会の活動を積極的に支援していきたいと思っております。近々、守る会の皆様とお話をさせていただきながら、存続要望の活動等のやり方の話し合いをしていきたいと考えているところであります。

72	大須賀中学校区	10	説明会	運営			今日の中で質問が多かった場合、この席上で回答をいただくことは時間の都合上難しいと思われます。この会議の席上で回答をすべてしていただきたいのですが、質問書に対して回答がなかった場合、後日、4つのまち協事務局にその質問と回答を届けるような配慮はできないか。	後日、ご質問と回答はこちらの方で取りまとめまして、4つのまちづくり協議会の事務局の方へお届けをしたいと考えておりますのでご理解いただきたいと思います。
73	大須賀中学校区	11	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係		小学校の統合を考えているのか。特に小学校は地域との結びつきが強く、児童の通学を考えると単純に統合するのは乱暴である。	<p>小学校の統合を考えているかということですが、先程申し上げましたように令和7年度までに小学校22校のうち13校、単級学級になるということで、教育委員会としては危機的な状況だと思っております。教員の不足もそうですけれども、そうやって考えていった時に、将来の子供達をどう育むか、今検討・研究を進めているわけです。少なくとも、今の教育環境下では非常に厳しいだろうということで、統合ありきよりも小中一貫教育ができる学校施設づくりを教育委員会としては考えております。ですから、単純に小学校と小学校がくっついてというだけでなく、実は、すでに一昨年から原野谷中学校区の原野谷学園、北部にある学校ですが、原野谷中学校、原田小学校、原谷小学校の3つの学校があります。そこと、城東学園は城東中学校、土方小学校、中小学校、佐東小学校の3小学校と1中学校の城東学園がございますが、それぞれ3年間の小中一貫教育に関する研究指定をしております。先週の金曜日に原野谷学園について原野谷中学校で発表があって、今週の金曜日に城東中学校でこの小中一貫教育のことについての研究発表がございます。地域の方々にも多数、参加いただければなと思っているわけですが、保護者から地域の区長さん方、または学校長さん、色々な方々に入ってきていただいて地域でその検討委員会、これからの学校施設のあり方を検討会を立ち上げて1年少しですけれども研究をしました。城東中学校区の地域検討会では、小中一体型施設、一体型の学校もしくは近いところに学校を造るというのが望ましいじゃないかというご意見が出されました。それと原野谷学園については、もう完全に小中一体型施設が望ましいということでご意見をいただいております。</p> <p>どちらも学校施設だけで考えておりますけれども、その中に先程から申し上げているような複合化というものも合わせて検討していくことになろうかと思っております。そういうふうに地域ごとに多少意見が異なっておりますので、当然この大須賀地区についてもまたご意見を伺う中で、どういった施設が良いのかということも参考にしていきたいと思っております。ですから小学校統合ありきではなくて、小中一貫教育を推進する中で統合していくという学校があること、それが小学校同士だけじゃなくて中学校とも一緒になるということもあるということで進んでおります。</p>



74	大須賀中学校区	12	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	<p>大淵小も10年のうちに統合、複合化となっているが、地域の重要な施設であり、経費だけでなくさないようにしてほしい。少ない人数だが良い教育環境で、よい子が育っていると思うが…。学校は残し、空いた部屋を地域の公共施設の複合化は良いと思う。</p>	<p>現状については、ご存知の方がほとんどだと思いますが、大須賀中学校区の小中学校の児童数ですが、大淵小は182人、普通学級が6クラスで1学年に1クラスしかございません。プラスして特別支援学級で発達障害等の子供さんが通うクラスが2学級ございます。横須賀小学校ですが、現在390人、普通学級が14学級あります。プラスして特別支援学級が3学級ございます。それから大須賀中学校になりますが、現在283人、9つの学級がございます。プラスして特別支援学級が2学級ございます。横須賀小学校、大淵小学校、大須賀中学校の子供の数が全てで855人、普通学級が29学級ございます。これが子供の人数の推計でございます。0歳児が小学校上がった頃に令和7年度になりますが、その時横須賀小学校が265人になりまして、390人から265人になります。それから大淵小学校が180人から126人になります。大須賀中学校が283人から264人。この令和7年度、横須賀小学校、大淵小学校、大須賀中学校の児童生徒の数を合計して655人。学級数でいうと23学級となります。今現在855人の29学級のところが令和7年度になりまして、約200人減りまして655人。学級数が6学級減りまして、23学級といった状況になります。子供の数が減るといのは大須賀中学校区だけでなく、全国的に少子高齢化と言われているところであります。掛川市全体の中でも子供の数が減っております。多少、中学校区によって変動の数は異なるわけですが、なぜ複合化といった時に今の国や県で求められる、掛川市でもそうですが子供達に求められる力というのが、今、社会の変化がものすごく激しいです。スピードがどんどん変わって、10年・20年先がどうなるのか、なかなか予測が付かないような時代になっていきます。今後、今の子供達が大人になるにつれて、社会の変化はまた激しく短期間で色々と変わってくるだろうと思います。そういった時代に向けて、子供達がしっかり逞しく「生きる力」と言っておりますけれども、そういった力をやっぱり学校教育だけではなく、先程から施設の複合化の話が出ておりますけれども、地域の皆様にもお力をお借りしながら、子供達を育てていくような環境を整えていくことが必要だということで全国的にそういう流れの中で動いているところがあります。先程の亀山市と松坂市は一つの事例として、ご紹介させていただきましても、そういった流れの中で述べているところなのですが、少人数ですとより良い環境でということで、例えば、子供を見るのに30人40人を1人で見ると5人10人を見た方が、目が行き届きやすいと思います。これは、数の理屈で言えば、当然そうなのですが、逆に子供の場合ですと、やはりある程度、切磋琢磨していく環境がないとなかなか生きる力というのは外へ出ていった時に、逞しく、色々な価値観を持った人達と共に生きる中で、ハローワークですけれども、そういった環境に入っていく時に環境に適応できないということもございます。ですから、ある程度小学校の頃から、そういった環境に置くということが望ましいということで、今現在、色々な分析をしておりますけれども、掛川市の場合は、全国学力学習状況調査の中で、はっきり学力の面で小規模校と中規模校以上で差ができてきております。先程、言っている生きる力という面においても、人数が多いところの方が、色々な価値観を持った子供が含まれているというところでは、そのより良い環境というのは、やはり考え方を変えていかなければいけないということで、今現在、掛川市は小中一貫教育を進めようということで学園化構想を検討しているわけですが、次の新たなステージに向けて新たな学園づくりを検討しております。新たな学園づくりというのは、この中学校区そのものの枠組みがどんなものかということについて検討しているわけですが、そういった中で、学校施設の再編をしていくということで、今市内に大淵小の例がございましたけれども、単級学級、いわゆる1学年に1学級、皆様の時代はもう1学年に3学級以上あったと思います。すごいところでは6学級、7学級あったと思います。そういった中で今、単級以上のクラスにしているということ学園化を進めておりますけれども、状況としては、小中一貫教育を進める中で、なるべく学級数も増やす、また縦の繋がり、中学校と小学校の繋がりがなければ横の繋がりも、数が増えることで多様な価値観を持って教育が進められるように考えております。</p>
75	大須賀中学校区	13	再配置の方向性	各地域の平等性	偏在	<p>廃止地域が南部（大須賀、大東）に集中しているように思えるが、差別ではないのか。</p>	<p>延床面積の割合を見ますと、大東、大須賀区域が多くあると思います。今、中学校区別での説明会を開催しておりますが、公共施設全体の住民1人当たりの面積というのが、市全体で3.11㎡ということになります。やはり、大浜中学校区や大須賀中学校区は、その平均よりもだいぶ多くございます。大浜中学校区が5.17㎡、大須賀中学校区が4.01㎡ということでございまして、やはり、合併前に町が調整を進める上で、必要な施設を整備したという結果だと思っております。町が住民の福祉という点で、施設を何年かかけて整備していただいたということだと思っております。</p>
76	大須賀中学校区	14	再配置の方向性	各地域の平等性	偏在	<p>統合、廃止施設は大須賀地区に多く生じるといことはないでしょうか。</p>	<p>そういった施設や建物も少し老朽化してきているということ、今回問題提供させていただいたとご理解いただければと思っております。確かに全体として、これを見ますと少しそういった傾向が感じられるかもしれませんが、これについては、別のご質問にも出ておりますが、機能のことをきちんと整理をして、どういうものが地域にとって必要な機能なのかということ、今後皆様と検討させていただきたいと思っております。</p>

77	大須賀中学校区	15	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係	<p>小学校区は昭和の合併の旧村であることが多く（例－大淵）、生活圏として自治的な機能を持ち、福祉などの基礎単位でもある。何より小学校を失った地域に子育て世帯が戻ることはなく、衰退が予想される。せっかく自然豊かな教育環境を求めてIターンやUターンした家族が増えてきた小学校区のコミュニティが簡単に壊れてしまう心配があります。この計画で今後、「一体校」が進めば広域的になり、スクールバスを利用する状況が次々と生まれ、これまで以上の予算が拡大する恐れがある。歩いて通える学校こそ、子供を真ん中にした、地域の中で育つ、開かれた学校づくりではないか。「学府一体化構想」を見直すべきではないか。地域を壊すような計画を進めるのですか。</p>	<p>再編ですので、どこで区切って学校を変えていくかというのは、今検討しているところでありますが教育委員会だけで決定するわけではありません。今現在、教育委員会と消防局の関係部署、財政も入ったり土木建築関係も入ったり、そういったところも入って市だけで結論を出すのではなくて、やはり有識者、大学の関係者にも入っていただいて、色々一緒になって検討をして、子供達にとってより良い教育環境、施設を検討しているところです。小学校6年、中学校3年合わせて9年間で義務教育になりますけれども、その9年間で義務教育ですから見直しに入っているところです。掛川市が進めている学園化から、その中の小中一貫教育についても小学校6年、中学校3年といった枠組みにとられることなく色々な研究を進めております。</p> <p>当然、一体校で広域的になるということは、スクールバスは子供達だけじゃなくて、大人や高齢者の方も利用できるようなバスにしていきたいという思いもございます。そういうことも含めて、色々と拡大する中で地域の皆様と学校が一緒になって子供達を育てていくことを基本にしていきたいと思っております。</p> <p>この中学校学園化構想は全部そのまま見直すのではなくて、その地域に合った特徴を生かせるようなところで見直しを行いながら進めていきたいと思っております。一番心配されるのが、子供が育って都会へ出て、戻ってこないのではないかとといったご心配をされていると思います。今のままでいったら余計に戻ってこない可能性が高いです。ですから掛川市に限らず、他の自治体もそうですが、世界で活躍する子供ももちろん必要ですし、そういった方々がまた地域に戻っても活躍できるような子供を育てていきたいと教育委員会としては考えております。</p>
78	大須賀中学校区	16	再配置の方向性	小中学校の再編		<p>小中一貫教育の方針等が決定されていないが、この方針と建物との関係が連携できるような対策を考えてほしい。</p>	<p>市のホームページを見ていただければと思いますが、掛川市が小中一貫教育方針を出してございます。平成28年から検討して平成29年に方針を出してございますので、その方針に基づいて、色々な小中一貫教育の取り組みを進めているというところです。</p> <p>当然、何か不具合があれば、そのところはまた検討、見直しを図りながら進めているところでございます。ご質問いただいた方には、そのように紙面でも出しておりますし、ネットでも見れるようにしてありますので、またご覧いただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>

79	大須賀中学校区	17	再配置の方向性	小中学校の再編		<p>学級の人数が少ないと生きる力が弱いというのは暴言。自分も単学級であるし、必ずしもそうではない。経費統合ありきの（前提の）考え方である。逆からの発想もしてほしい。山の方の少ないところはどうなるのか。遠くへ行かなければならない。小学校で少なくとも中学校、高校で次第に多くなり、その中でも育つのではないか。</p>	<p>子供の特徴を考えていけば、100%生きる力が育まれないということはないかもしれませんが。しかし、トータルとして13校見ておりますけれども、全体を見るとそういう傾向がございます。これは明らかに事実として出ているところです。この中で先程申し上げなかったのですが、経費だけのことでなくて、要は学校があっても現実として、教える人いわゆる教員が不足しております。掛川市内ですけれども、小中学校の教員が4割、地元で6割が他市から来ていただいて定数を埋めております。ほとんど袋井、磐田、島田、藤枝、遠いところだと静岡、浜松からも来ております。それでクラスの担任に入ってもらい、100%教員の数を埋めているという現実がございます。</p> <p>今、皆様は新聞等で教員の働き方改革の話はご存知かと思いますが、現状としては厳しい状況です。この前の神戸で教員のいじめ問題がありました。本当にあってはならない事件が起きたように、学校の教員の組織上の問題、数の問題、そういったものが全国的にあると思います。掛川市はその中でもかなり数的には危機的な状況です。ですから今のまま、学校数といった時に、配置できないようなところもございます。それを何とかして、例えば70歳過ぎの退職した方に教壇に立ってもらっているという事実もございます。そうやって、先生方の数を何とか足りるようにして対応しているところです。今も若い先生方を県の方も採用して増やしてはいるのですが、なかなか若い先生というのは、いきなり質が高い、能力が高いという教員だけではございませんので、育成をすると何年もかかたりいたします。そういった中で、子供達が本当にどこの学校に行っても、しっかりとした教育を受けられるようにするのが、我々教育委員会や行政の務めだと思っておりますので、先程言ったような生きる力がしっかり備わる、色々な面から子供達の成長を考えて育んでいきたいと考えます。</p>
80	大須賀中学校区	18	再配置の方向性	縮充		<p>この計画案を見ると平成の大合併を想起します。結果として住民負担は重く、サービスは低くだったではありませんか。市は「施設の量は『縮減』、統廃合や複合化なので、サービスの質的向上での『充実』」ということですが、結果は質の低下につながるではありませんか？大須賀や大東地区はこの1期10年間で多くの施設が統合、複合化され「真っ赤」です。公共施設の統合化は地域の衰退、生業が立ち行かなくなることを心配します。</p>	<p>地域が衰退しないように、ご相談させていただきたいと思っております。施設については、面積が減ったり、少し距離が離れたり、色々なことが出てくるかもしれませんが、地域ごとに施設を集約し、これまでの施設では成し得なかった多目的な利用とか複合化を地域の皆様の賑わいという視点で整備していきたいと考えております。</p>
81	大須賀中学校区	19	再配置の方向性	防災		<p>ここ数年の台風、大雨による災害も考慮したものになっているか。場合により、思い切った設置場所の変更も必要なのでは。</p>	<p>今回、施設の統廃合も含めた建替時には、このご指摘をいただいたご意見はごもっともだと思いますので、そういった視点も考慮しながらご相談をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。</p>

82	大須賀中学校区	20	検討の進め方	計画策定期			策定が来年の10月予定となっています。あまりにも拙速すぎるのではありませんか。今後50年間の公共施設の再配置案を決めるんですよ。なぜ来年の10月なのですか。あまりにも短期間すぎるのでは。来年の10月という根拠、理由を聞かせてください。	今回の再配置の計画については、あくまで各施設の再配置検討の方向性や時期を示すものであります。申し上げておりますが、事業化をしていく段階につきましても、もちろん関係の皆様、それから地域の皆様と協議をさせていただきながら推進をしていくということになります。それから再配置方針を基に、地域の皆様や議会の方とも、あるいは行財政改革審議会のご意見・ご議論を踏まえ再配置計画を策定していきたいと考えております。ですので、先程も申し上げましたが、この再配置の計画については、社会経済情勢の変化や市民ニーズの変化等によりまして、10年ごとに見直しを進めていくという予定でございますので、ご理解をいただきたいと思っております。
83	大須賀中学校区	21	再配置の方向性	個別施設	大須賀		複合化を検討しているが、建物はそのままにしてゾーンのイメージでいいのか。	現在の施設の状況によっても異なってくると思いますが、おっしゃるように既存の建物をそのまま使用できるケースの他、複合化施設として再整備すべきケースもあろうかと思っております。個別具体的な事業ごとに地域の皆様と協議しながら検討していきたいと思っております。
84	大須賀中学校区	22	再配置の方向性	個別施設	産業施設		サンサンファームととうもんの里は設置時点でも趣旨目的が異なるが、統合に際して、それらも考えられているのか。	質問の趣旨はその通りだと思います。サンサンファームについては農産物の物販施設、それから、とうもんの里については田園空間博物館ということで、それぞれの成り立ちが違っているというのは重々承知しております。そういう中でこれもまた、地域の皆様とのご相談・ご協議になるかと思っておりますが、そういったものを複合化して機能を維持しつつ、新しい良いものができるかということをご相談させていただければと思っております。 もちろん、掛川市の中でも行政部局と調整が済んだ上で、ご提案申し上げているところでありますので、よろしく願いいたします。
85	大須賀中学校区	23	再配置の方向性	計画の見直し			収入減、支出増の前提はなにか。あまく見積もってはいないか。見直しの追加は？	財源の見直しにつきましては、総合計画の目標人口等を踏まえ財政計画を策定しております。将来の収支と見積もっておりますけれども、現実な見通しと異なってくることもあろうかと思っております。本計画についても10年ごとに計画を見直していきたいと考えております。 なお、収支の見直しにつきましては、市のホームページの方をまたご覧いただければと思っております。公共施設等総合管理計画の33頁にその財源不足の内容説明がございますので、よろしく願いいたします。
86	大須賀中学校区	24	再配置の方向性	財源不足			将来財源不足は掛川市のみでしょうか。日本全体のことであれば全体像についても説明していただきたい。	当然、将来、財源が不足するのではないかというのは、掛川市だけではないと思っております。これは全国的な傾向であると思っております。少子高齢化が進展をしていきますと支える人口が減ってまいりますので、それについては財源不足が予想されるところであります。 実は、先程も話がありましたけれども、公共施設等総合管理計画を掛川市は平成28年3月に策定をいたしました。これは、掛川市が作っている冊子ですけれども国が全国的な財源不足、あるいは施設の老朽化を懸念して、全国の自治体につくるように指示を出した計画でもあります。そんなことから今のご質問については、全国の自治体も同じ課題を抱えていることでご理解をいただきたいと思っております。

87	大須賀中学校区	25	再配置の方向性	縮充			再配置によるマイナスはどのように考えているのか。プラスしか出していない。	<p>先程申し上げたように、課題につきましては、これから色々出てくるかと思います。一つは避難所の関係、防災上の安全・安心の確保という点。それから、今回の再配置方針については施設を複合化・集約化していくことが前提になっておりますので、住民の方によっては施設が遠くなる場合もあるかと思います。そういった時の足の確保をどうしていくのかというのは、課題として発生してくるかと思います。</p> <p>先程、教育長からスクールバスのお話が出ましたが、やはり市の方でも仮に朝スクールバスに子供さんが乗って、お昼の時間帯にも空いているのであれば、それを別の用途に使う方法はないだろうかということ、一般市民の方や高齢者の方が活用できるような運行や形態も今回の公共施設の再配置について検討していく必要があると思っております。</p>
88	大須賀中学校区	26	再配置の方向性	防災			各施設の防犯上の管理および地震時の対応など、どうするのでしょうか。	<p>もちろん防犯上の管理は適切に管理をして、施設を継続して利用していく場合については、安全かつ適正に管理してまいります。地震時の対応の関係でございます。もちろん学校や色んなセンターとは避難所の機能も兼ね備えております。そんなこともありますので、必要な機能については、生活の近いところに残していくのは大切なことだと思います。その中でも今こそ防災拠点をどうしていくのかについても検討させていただきたいと思っております。</p>
89	大須賀中学校区	27	再配置の方向性	跡地・空き施設			廃止の後はどうするのか。	<p>原則として建物については、解体・譲渡していきたいと現時点では考えております。不要になった跡地はどうするのかということは、現時点では売却・譲渡を図ることを基本に考えておりますが、これにつきましても地域の皆様とご相談をさせていただいて、個別に慎重に検討していきたいと考えております。</p>
90	大須賀中学校区	28	再配置の方向性	跡地・空き施設			廃止とした所の土地はどのようにするのですか。	
91	大須賀中学校区	29	説明会	説明内容			説明会の主旨は何か？実行するということか。	<p>50年間の計画を推進していくということになりますが、来年に再配置計画、本日のご説明は再配置方針という段階でございます。再配置計画を来年度策定するために皆様からご意見をいただきたいという趣旨で説明会を開催させていただいております。</p>
92	大須賀中学校区	30	検討の進め方	市民意見	合意形成		<p>広報誌10月号では「策定には、地域の説明会や市民アンケート調査などを通じて情報の共有や議論、ニーズに把握に努めます。」とありますが、特定の公共施設で市民が納得できないとするならどうするのですか。東京オリンピックのマラソン、競歩競技では、東京都の小池知事が「合意なき決定」ということを述べ、不快感をあらわにしました。市は、市民の声を聞くポーズを示しながら、実は「計画ありき」ではありませんか。何事においても地域や市民との合意が前提ではありませんか。十分な時間をとり、合意に向けた努力が市には求められています。いかがでしょうか。</p>	<p>説明会後は実行するかというご意見ですが、実際に施設の再整備を進めていくことになれば、個別の説明会はおそらく何回も何回も重ねないと皆様のご理解はいただけないだろうと思っております。この50年間の長期計画ではございますけれども、こういった説明については、丁寧にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>

93	大須賀中学校区	31	検討の進め方	市民意見	合意形成		<p>市は今後50年間の再配置方針を中学校区ごとに9カ所各会場1時間あまりで説明し質問項目も3問のみ。市はその場で回答するということは、あまりに一方通行ではないのか。市民に寄り添う姿勢が欠けているのではないか。</p>	<p>説明会の他にも市のホームページ、あるいは電話、FAXメール等で、多くの皆様のご意見をいただければと思っております。また現在、市のホームページ上にWebアンケートを掲載しております。ぜひご回答いただければと思っております。</p> <p>それぞれの各施設の事業化の段階につきましては、実際の再配置を事業化する際に、個別案件ごとに地域や利用者の皆様等と協議しながら、具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。皆様のご意見については、丁寧に対応させていただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。</p>
94	大須賀中学校区	32	検討の進め方	市民意見	合意形成		<p>12月17日(火)の桜が丘中学校区が最後の説明会となるわけです。10月広報には「市民ニーズ把握や情報共有のための地区説明会や」と見出しがあり、「計画を推進、具体化するための策定には地域の説明会や市民アンケート調査などを通じてニーズの把握に努めます。」とあります。説明会は今回1回限りで終わりということでしょうか。</p>	<p>今回9カ所説明会を開催し来月までに一巡いたします。今後の説明会は、今の時点では未定でございますので、必要な都度開催をしていくということになると思います。他の会場でも申し上げているのですが、こういう話ですので情報提供やご説明については丁寧に進めていきたいと考えております。</p> <p>また、地区説明会の他にも色々な形でご意見をお寄せいただきたいと思います。一例申し上げますと、今日次第の一番下右側のところにQRコードが記載しております。これをスマホで読んでいただきますと市のホームページに飛びます。その中に色々なアンケートやご意見をお寄せいただけるような形になっております。ぜひインターネット環境にある方につきましては、そういう形で市の方に色々なご意見をいただけるとありがたいと思っております。</p>
95	大須賀中学校区	33	検討の進め方	市民意見	合意形成	○	<p>自治体の再配置事例の紹介を見て、中学校(新校舎)のイメージ(内部)から学校専用、学校、公民館など、地域の活性化のために必要なことだと思っています。地域の人が集う施設があれば活性化につながると思います。これからどんな施設が計画されているか教えていただきたいと思っています。また地域の声を吸い上げていただきたいと思っています。</p>	<p>先程のご説明の中で「縮充」という言葉を使わせていただいておりますが、面積的には少し小さくなりますけれども、機能としては充実していきたいという考え方であります。少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化によって、既存の公共施設では対応しきれていない、新しい市民ニーズが今後増加することも予想されます。従いまして、今回の再配置につきましては、それらの新しい市民ニーズに対応した、新たな公共施設、新たな公共サービス構築をする機会ということで考えているところでございます。</p>

96	城東中学校区	1	再配置の方向性	小中学校の再編			<p>市町村合併の時、合併すれば小学校は現状維持されると聞いていた。説明が違っていたのか。</p>	<p>当時、そういう説明をお聞きになったということは、そのような説明がされたのだと思いますが、いずれにしても合併して10年以上経っております。その頃と社会情勢が本当に大きく変わってきているというのは、皆様もお解りいただけると思います。先程言った少子高齢化というのも全国的なことで掛川市に限ったことではないと思います。そういった中で、例えばですが教育委員会の学童施設も所管しておりますけれども、そういったものもどんどんニーズが高くなり、今足りなくて学校の教室を学童に変えているところも学校によってはございます。そのように施設に関連していることもだいぶ状況が変わってきているということです。それから、小中学校ですけれども、先程言ったように全体として子供の数は減っていく中で、求められていく教育の中身が大きく変わってきています。今まで英語と言うと中学校以上でした。けれども、これからは小学校からでも英語を学び、先進的なところ（都会）は、本当に幼稚園の頃から英語に親しむようなところも公立でも私立でも出始めております。そういう世の中が教育環境も変えていく、変わっていく中でそういったことに対応をしていかなきゃいけないということを教育委員会としては考えなければいけません。</p> <p>今までは知識偏重型、例えば学力一つとっても学校で学んで、それでできたかどうかテストで評価してというような時代だったと思います。これからの世の中はそうではなくて、未来創造型と言って新しいものを生み出していく、そういった知恵をつけていく、もっと言うと平成の途中から生きる力を付けなきゃいけないということを国が割り出して、今では更にもっと強く生きる力を付けなきゃいけないということで、それを学校教育の中では色々な授業の中で思考力だとか判断力だとか、もっと先を見通するような洞察力等、そういったような力を授業の中でも付けていかなきゃいけないと思います。その時に、先程来申し上げているように、数人の固定化・人間関係が固定化されている環境の中で切磋琢磨できるというと、そういった意味でお話しましたような力がなかなか身に付いていかない、より強く生きるっていうのはある程度チャレンジしていかなきゃいけない、そういったことも求められてくると思います。そういった意味で国全体で変えていこうという、そういう流れの中でもありますので合併当初の時と状況が全く異なっているということでご理解いただきたいと思います。</p>
97	城東中学校区	2	再配置の方向性	財源不足	試算		<p>維持管理費が年平均100億円、上下水道は別会計30億は除くとして、一般会計分年平均70億円であり（投資可能予算が年平均40億円）、毎年30億円足りないから延床面積の25%削減というのが具体的根拠、理由を聞かせてください。</p>	<p>公共施設再配置方針という冊子がございます。今日はお手元の方に配布しておりませんが、冊子の5ページにその不足額の積算根拠を掲載してございます。大まかに申し上げますと、50年間で不足する金額は1604億円、更新費用は維持運営費、維持管理費にかかるのが7063億円ということで、それを分子分母で割りますと、およそ23%の削減が必要であるというような計算をしております。必要な方がいらっしゃいましたら、事務局にお申し付けいただきお持ちいただければと思います。</p>
98	城東中学校区	3	再配置の方向性	各地域の平等性	偏在		<p>平成合併では予算規模が大きくなるメリットが謳われていたと思うが合併後、南部はそのように充実化されたのか。城東地区は空白区になっていかないか心配。</p>	<p>推測もありますけれども、予算規模が大きくなると謳われたというのは、例えばですが、旧町で実現できないような大規模な事業が合併特例債等の財源によって事業の実現できるという意味かなと理解しました。どのようなものが南部地域にこれまで公共投資があったかと言いますと、例えばですが大東図書館です。それから、市道海洋公園線や近い所と言いますと市道入山瀬線はおよそ40億円の事業費がかかっております。あとは、南部体育館もそれにあたります。今は防潮堤等の海岸線でそういうような整備をしていること、それから、さらに申し上げれば、現在、こども園の整備を進めておりますけれどもそれにも合併特例債を充当しているところでもあります。</p> <p>城東地区が空白になっていないか心配ということでございますので、これについては、市とそれから地元の皆様、まちづくり協議会等の皆様と含めて今回の再編の中で良い案ができればと考えております。</p>

99	城東中学校区	4	再配置の方向性	立地		再配置される場所の候補とか考えられているのか。	地域の皆様とご協議・ご相談させていただきながら、再配置の候補地等を検討していきたいと考えております。
100	城東中学校区	5	再配置の方向性	目標設定	根拠	30億円の算出根拠がよくわかりませんが、学校施設を統廃合して、新しい施設に造り替える費用（古い施設の解体費用も含めて）と今ある施設の長寿命化を図る場合で、かかる費用はどうかというような試算は行われているのでしょうか。長寿命化を基本として取り組んでいる自治体の視察は行われたのでしょうか。再配置計画を来年秋にはまとめるというのはあまりにも拙速のように思います。	個々の施設ごとに修繕費や長寿命化の経費を計算しているということではございませんが、これについて、長寿命化を進めるというのは非常に大切なことでもありますし、安全性の確保という観点からも重要であると思います。従いまして、これは当然長寿命化をきちんと進めていきますのでその点については、またお気づきの点があればご意見をいただければと思います。
101	城東中学校区	6	再配置の方向性	その他		老朽化の指標が木造30年、鉄筋60年とあるが、メンテナンスして長寿命化、改修などによって長く使っていくということは考えないのでしょうか。危険な原発でさえ年数を延ばしている。	今、お答えさせていただいたとおり、長寿命化の方は適切に進めてまいりたいと思います。
102	城東中学校区	7	検討の進め方	市民意見	具体的	公共施設再配置がなぜ必要かは資料2により理解できましたが、具体的に城東中学校区はどのように再配置したいのか個々の施設ごとの説明を求めます。	先程申し上げましたように、小中学校の拠点化というものが、今回の再配置方針の基本になる考え方であります。ご質問の個々の施設につきましては、事業化の段階で地元の皆様、関係の皆様と丁寧な説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
103	城東中学校区	8	検討の進め方	その他		資料2の下段、再配置（案）の修正について行革審と議論ができるか。行革審と議会の立場は？参考資料が行革審ありきのような気がする。	掛川市の行財政改革審議会は、市長の諮問機関でございますし、専門的な観点からご議論やご協議をいただいているところであります。今後、答申をいただきご意見を踏まえプランについては、修正を検討してまいりたいと考えております。
104	城東中学校区	9	再配置の方向性	防災	防災拠点	避難所（小中学校）の老朽化が進み、災害時の防災拠点は確保できるのか。	大変重要な視点かと思えます。再配置の検討時期にはご質問にありました避難所等については、個々の再編を検討する際にどうしていくかということをしっかり検討していきたいと思っております。
105	城東中学校区	10	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係	再配置事例、絵に描いた餅にならないように。城東中学校区で可能なのか？小中学校統合は地区にとっては大きいマイナス。	これは先程もご説明したようなところで、地域としては子供の声が聞こえなくなるというのは、寂しい思いをするということとはよく解りますし、また、通うところも統合していけば、少し遠くなるということも考えられる等の課題も色々ございます。 当然、そのことについても現在検討しておりますし、絵に描いた餅にならないように、じっくり進めていきたいと思っておりますが、ただ、先程から言っているような人の問題というのはなるべく早く対応していかなくちゃいけないということがございますので、この城東学園については一貫教育についても研究を進めておりますので、早めに絵に描いた餅にならないように進めてまいりたいと思っております。



106	城東中学校区	11	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係	<p>城東中学校区をみると、中地区、佐東地区ともに小学校と幼稚園が唯一の公共施設となっています。適正配置を言うのであれば、それぞれの施設を複合化して地域の拠点とすべきではないでしょうか。すべてを土方地域に統廃合してしまったり、両地域の活性化はできないではないでしょうか。再配置事例に示されているような複合化の検討をすべきではないでしょうか。</p>	<p>このご質問は各小学校ごとに複合したらどうかということだと思いますが、学校が地域の太陽というのはよく言われることですが、そこに学校があって、そこに地域の方が入った複合化の施設ができれば一番良いということだと思います。これは教育的な問題として、子供の数については少子高齢化ということで、大体のことはお解りだと思うのですが、それと合わせて色んな業種でも人不足のことが言われていると思います。我々、教育委員会として困っているのは、教員がかなり不足をしまっているということです。今現在、全ての小・中学校、掛川市出身、要するに地元の教員ですが、地元の教員が今、4割ちょっとで6割は全て他市から遠いところでは静岡や浜松からもきています。磐田、袋井も近隣は全て来ていただいて定数と我々は言うのですが、学級担任が居ないのでは困りますので、そういった他市から教員をいただいて定数を満たしているという状況でございます。そういった状況がある中で、今後、教員になりたいという希望が増えるように色々な働きかけはしているのですが、急には増えてはいかない、働き方改革の関係でも、本当に学校の苦しい状況がテレビや新聞等で報道されていて、そういう話を聞きますと学生も教員になるのはやっぱりやめとこうかなというような傾向がある大学も多くなってきているということを知っています。そのため今後、若い先生が増えていく見込みがとれない状況でもあります。そういった中で、今の学校数の場合、かなり教員を配置することについても、もう既に他市でも起きておりますが、教員配置の欠員が起こっており教頭先生や教務主任等、そういった方々に担任に入ってもらおうというような状況です。大きいところは、ある程度のりしる付けられてやってこられたところがあったのですが、だんだんできなくなってきていて小規模校等は、例えば若い先生が産休・育休というお休みをとってしまうと、そこに新たな教員を非常勤として付けなければならないのですが、そういった非常勤も居ない状況です。先程言った、遠い所から来てもらっているわけですが、中にはそれじゃ遠いから配置できず、職員が居ない状態であるところもあります。教育委員会としてどうしているかと言うと、完全にリタイアした方々が、一番上の方で70歳過ぎの方も実際にいるということで、そういった方々にもちょっとお願いをしながら、定数を満たしていく、あとは臨時で入ってもらって何とか学校を回してもらっているという状況にあります。従いまして、それぞれの地区で小学校があって、子供の声が聞こえる状況、また複合化して高齢者とも共用して施設が使えるような状況になるというのは理想な状況だと思います。そういった状況がこの城東学園だけじゃなく全ての学園にあります。もう少し申し上げますと小学校が市内で22校ございます。中学校が9校、合計すると31校の小中学校が掛川市内全体であるわけですが、小学校だけで見ますと22校のうちの半分の11校がいわゆる小規模校、もう少し解りやすく言いますと1学年に1学級しかないということです。1学年1学級しかない学校が22校中11校ございます。今0歳児の方がこれから小学校に入った、令和7年度の時にはこの11校が13校になります。現在推測で13校ですが更に増えていきます。そういった状況になってくると、先程言った教員の配置の問題もございます。それと国や県が言っているもう一つは、これからもっと世の中で強く生きていかなきゃいけないということで、そういった力を身に付けて欲しいということで県教委や各市町で新しい教育システム、掛川の場合は小中一貫教育をやるうとしているわけですが、それにプラスして他の環境づくりということを考えているわけですが、そのためには、1学年に少なくとも2学級から3学級、理想としては3学級以上だと思います。そういった学校をやっぱり造っていくのが望ましい。やはり、ある程度の子供数が居ないと、その中で子供達も色々な価値感っていうんでしょうか、多様な見方っていうんでしょうか、そういったことが学べない、今の単級学級のデメリットになるところが、やっぱり固定化されてしまうということです。人間関係も固定化されてしまって、なかなか新たな想像力って言うんでしょうかね、新しいことを生み出すというところに関しては非常に力が弱いと国の方から指摘されているわけですが、そういったところへ今後やっぱり改善するためにはある程度の子供の数がいる環境を整えてあげることが、我々大人の責任なのか教育委員会としても最大限努力して、そういう学校施設を造っていかなくちゃいけないのかと思っております。それにプラスして複合化というのは子供だけの環境だけじゃなくて、地域の方々も入って大人も入って子供達を教育していく、子供を見ていくというような環境も必要だということで、先進事例の亀山市と松阪市のことが出ていましたけれども、そういった複合化施設ということが出ていていると思います。今後、掛川市として、教育委員会としては市長部局の方とも色々協議しながら、その地域に合った学校づくりということを進めていくということ、複合化の検討については、ある程度全体の再編をしつつ、統廃合も当然その中に入ってきております。そういったことも進めていかなくちゃいけないということで、これは今後、こういった地域説明が控えておりますけど、全部の中学校区でお話をしていきたいというところでございます。</p>
107	城東中学校区	12	再配置の方向性	小中学校の再編		<p>学園化のあり方検討委員会は、早々と「一体型」または「隣接型」の統廃合を決めたようですが、地域の声がほとんど反映されることもなく「統廃合ありき」の検討結果のように思います。委員長の鈴木氏は行革審の委員でもあったと聞いていますが、地域の学校のあるべき姿として、どのような答申をまとめられたのでしょうか。</p>	<p>答申については、実際にホームページ等でも公開をしております、まとめられたものを教育委員会が委員長から受けとりまして、これをまた市長の方にも報告をさせていただいているわけですが、今ここの中に言った隣接の一体型または隣接型というのは、教育委員会としてはまだそこまで複合施設をつくるということを前提として検討したわけではありません。元々は、子供の教育環境をとって望ましい施設は何かということで、小中一貫教育を今後進めるにあたって、どういった施設がいいのかということで一部地域の方にも入っていただいていますし、幼稚園・小学校・中学校の先生または、地区の区長様や関係課、学園化に関係している方々入っていただいて検討委員会の中で検討してきました。</p> <p>当然、多くの地域の方々に意見を聞いたということではございませんので、ご質問が出ているようなところの部分はご意見として聞いていかなくちゃいけないと思いますが、答申としては基本的に平成29年度に掲げました「小中一貫教育基本法推進基本方針」それにのっとって、先程言ったように市内全体を小中一貫教育ができるような環境にしていくということです。中身は、城東学園でも研究されておりますので、そういったものを土台に進めていきます。ハード的な面については城東学園では一体型または隣接ということで出ておりますけれども、今後、複合化ということになってくれば、その部分がどうなっているか、またこれは今後の検討課題ということになるかと思っておりますので、今現在は複合化のことを置きながら検討を進めているというところでございます。</p>

108	城東中学校区	13	再配置の方向性	小中学校の再編		<p>現在、幼稚園、保育園の統廃合を進めていることは聞いておりますが、城東中学校、小学校および幼稚園の学園化構想について現在の進捗状況を知りたい。</p>	<p>学園化構想は従来から保幼小中連携した教育をこれまでやってきていて、掛川市ではかなり歴史があり30年以上の歴史がございます。そこで一歩進めていくのが一貫教育でございます。これから進めるのは小中一貫教育がメインでございます。保幼のところについては、連携教育をこれまでと同じように進めていくことです。この学園化構想ですが、市内全ての中学校区で既に学園化は進めておりますけれども、さらに小中一貫教育を行うための学園づくりということで、それは今現在、市教委の方でも検討しております。検討の主なところが市内全体ですので、再編も含めた形で検討を進めているということで、教育委員会では新たな学園づくり研究会というのを立ち上げまして、これは教育委員会だけでは話が進んでいきませんので、市長部局の関係する部署の方々にも入ってもらいますし、また市だけの考えでも困ることになるとしますので、第三者的に大学関係者や有識者の方々にも入っていただいて検討を進めているところでございます。ですから今年度中には、一つの案をできる限りまとめて先程のプレゼンでも説明がありましたが、10月に案を出していくということなので、それに間に合うように進めているところでございます。</p> <p>保育園の関係は、部長の方からご説明いたします。それでは、私の方から幼稚園・保育園の状況についてご説明をさせていただきます。城東地区につきましては、三つ目の幼稚園、それから一つの保育園を新しい認定こども園にしていくということで、今年の夏に場所が決まって、お知らせしたとおり吉岡彌生記念館の西側の田んぼのところ造っていく予定でございます。今、こども園を運営する大東福祉会さんの方で、建物の設計をする業務をどこにお願いするかということで、その選定を行っております。近々決定されるということを伺っておりますが、その建物等の設計、それから具体的にその土地の取得のお願いさせていただいたり、造成工事、それから建築工事という形で入っていくということになります。開園が令和5年4月ということですので、事業進捗に合わせて、年4回認定こども園便りというのを各組に回覧させていただいていますが、その中でもご報告をさせていただきたいと思っておりますし、これから事業が具体化してきますので、それに併せて必要に応じて、地区説明会等もやっていくような形になろうかと思っております。また、今月17日の日曜日にそれこそ、この会場できとう認定こども園のワークショップをやるということで、幼稚園・保育園の保護者の皆様、それから地区の子育て世代の皆様にご参加いただいて、ワークショップを開催しますので、申し込みされてない方もどんな話がされているのかなということで、ご見学に来ていただければと思います。また、進捗についてはその都度お知らせしていきたいと思っておりますので、よろしく願います。</p>
109	城東中学校区	14	説明会	説明内容	事例	<p>掛川市と三重県亀山市&amp;松阪市との違いは何か。なぜ先進的な考え方や動きができたのかは調査していますか。掛川市は事例のまねをする考えですか。</p>	<p>先進的な事業につきましては、施設のあり方を行政、地域の皆様でよく話し合い、協議をしていただきながら、このような事例になったと聞いております。掛川市でも、地域の皆様とよく話し合い、意見交換を行いながら進めてまいりたいと考えております。先進的な事例、複合化や機能集約というものが、これまでの施設では成し得なかった機能充実を達成するというものでありますので、良いところは取り入れていきたいと考えております。</p>
110	城東中学校区	15	再配置の方向性	その他		<p>I期とII期はどのような理由で決められているのか教えてください。</p>	<p>基本的には、施設の対応年数の到来時期にI・II期の検討時期を合わせております。</p>
111	城東中学校区	16	再配置の方向性	各地域の平等性		<p>三重県（川崎小学校、鎌田中学校）の施設をモデルケースとして説明されたが、当地域にフィットした計画案なのか。公共施設の統廃合は時代の流れでいたしかたないが、切り捨てられる地域（利便性）があってはならない。税金使用の公平性、均衡性が重要だと思う。</p>	<p>今回、再編の根本的な考え方は中学校区、それから学校を地域の核とするという考え方を持っていますので、当地域にフィットしていきたいということも地域の皆様とよく協議をしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>

112	城東中学校区	17	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	統合、複合化の検討と言うことは、最終的に掛川市は小中一貫校にすべてなるのか。	<p>まず小中一貫教育については、皆様もご存知かと思いますが、今日お手元の資料に城東中学校で行われます研究発表会のご案内資料が入っていると思います。この掛川市が進めている学園化構想は城東学園がスタートになっております。ここで研究されたものが市内の9中学校全ての学園に反映されておりますのでここが発祥の地です。</p> <p>教育委員会としては、これまでも色々な取り組みをされてきたものが各小中学校へ波及しているということで、その第二段階として新たな学園づくりということで未来を見ていった時、将来、国やこのまちを担っていく、支えていくリーダーシップの取れるような人材、子供の育成をしていかなきゃいけないということで、中身を考えたのが小中一貫教育ということです。今現在、先程言ったように城東学園、それからもう1校、北部の方で原野谷学園も研究指定しております。そちらの方で3年目の研究を終えようとしているところなのですが、その発表を受けて、この掛川市として望ましい小中一貫教育、もっと言うと小中一貫校をどう造っていくかっていうこと、その検討を並行して進めているところです。従いまして、最終的に掛川市は小中一貫校に全てなるのかということですが、中身のソフト面は研究しておりますので、もうすでにどんどん始めていきます。ただ、施設の方はそこにすぐに追いついてはいけないものですから、徐々に地域のお声を聞きながら一貫教育がよりしやすい環境、学校施設づくりを進めていきたいということです。</p>
113	城東中学校区	18	説明会	運営		この説明会の前日が同じ会場での議会報告会でした。2日連続で平日夜の参加はきついです。なので、昨日の議会報告会は別の日に行くことにしました。もう少し日程を考えてください。たしか城東と西中（or北中）が連続になっています。	ご苦勞をおかけして大変申し訳ありません。今後はこういうことのないように日程を考えてまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。
114	城東中学校区	19	再配置の方向性	跡地・空き施設		1期廃止となっている幼稚園の建物、土地の利用についてはどのように考えているか。公園等に整備する考えはないか。	現時点では、先程ご説明申し上げましたとおり、譲渡・売却を図るということを基本と考えておりますが、これについても地域の皆様とご相談をさせていただきながら個別に慎重な検討をしていきたいと考えております。
115	城東中学校区	20	再配置の方向性	財源不足	試算	市の財政健全化がテーマになると、必ず施設統廃合が手段として選ばれる。そこで今回の課題としてあげられたもののうち①人口減少、少子高齢化②財政状況の変化に対し、どのような対策を打ち、どのような効果があり、にも関わらず、先の説明の年間30億円不足を補うことができないのか説明が必要ではないか。特に菊川市が住みやすいということから、掛川から菊川へ移る若者が多いと聞きます。そのことを比較して調べたのか。調べたなら説明してほしい。	<p>人口減少、少子化、少子高齢化の対策につきましては、掛川市では現在、例えば保育園を増やして働きやすい環境を整えたりですとか、あるいは企業誘致をしたりですとか、移住定住の促進ですとか、その他にもたくさん子供を産み育てるような環境の整備を総合的に進めているところであります。それによって、2040年に人口12万人に回復しようというようなことを考えて政策を進めております。それから、財政状況の説明ということでございますが、これまでも色々な経費削減に取り組んでまいりました。</p> <p>平成21年に第1期の行財政改革審議会を設置いたしまして、1期2年で現段階で第5期の行財政改革審議会を継続して設置をし職員の削減ですとか、経常経費の削減に努め、それを投資的な成長分野の方に回そうというようなことを進めてきたところであります。ご質問の趣旨にありますように一番大変になるのは生産年齢人口が減少し、支える世代が少なくなっていくことですので、そこのところを市もそうですけれども、地域の皆様のご協力をいただきながら、対応していきたいという趣旨でございますので、ご理解をいただきたいと存じます。</p>

116	城東中学校区	21	再配置の方向性	交通手段		なぜ松阪市の事例を取り上げたかわからない。人口を調べたら5万人ほどで掛川よりかなり少ないし、小学校の写真を見た感じでは、当地区（城東）より街みたいで（建物が多い）あまり参考にならないのでは？「縮充」という言葉に違和感。施設がいくら立派になりサービスがよくなっても、遠いと「足」はどうするのか。「足は地域で検討」ではあんまりでは？	松阪市は人口5万人ということですが、現在松阪市は15万から16万人の人口を有する都市であると思いますので、よろしく願いいたします。それから、施設を集約化・複合化していきますと遠くなる施設も出てきようかと思えます。そうした場合には、例えばスクールバス、朝送って行ったスクールバスを昼間、一般の市民の方ですと高齢者の方が使えるような方法はないかというようなことも移動手段を検討していきたいと考えています。
117	城東中学校区	22	説明会	説明内容		資料の再配置案等の見方がわかりにくい。もう少し詳しく説明してもらわないと、城東中学校区の例だけあげられても困る。黒枠（竹の丸等）の施設はどういう意味か。	耐用年数が50年以上ある施設又は歴史的建造物につきましては、建替等にそぐわない施設ということで、黒い枠にさせていただいて表示をさせていただいております。
118	城東中学校区	23	検討の進め方	市民意見	合意形成	H28年から今までの間に、どういう経緯でこういう配置になったのか。策定案を作るプロセスがよくわからない。H28年かせてその次の年くらいに地域の意見を先に聞くべきでは？毎回のことながら順番が逆。掛川市はいつもそうで本当に残念。先にいろんな声を存分に聞いて、それから大枠を提案してほしい。こういうことをやっているから市民がいつまでたっても役所任せになる。報徳の精神と違う。	実際の再配置も勿論そういうようなことで、丁寧な説明を心がけていきたいと思っておりますが、各施設の事業化の段階では、個別案件ごとに地域や利用者の皆様等の関係者のご意見をいただきながら、協議を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
119	城東中学校区	24	再配置の方向性	その他		この先、掛川市をどのようにしたいのか。その姿が見えない。	現在の掛川市は総合計画の中で将来像を「希望が見えるまち、住みたくなるまち掛川」としてまちづくりを進めております。このようなまちを創っていくためには将来にわたって持続することが可能なまち、持続可能なまちを作ることが必要であると考えております。持続可能な行財政運営を行いながら、子供達の未来のために必要な投資を行うようにしていきたいと考えております。

120	城東中学校区	25	再配置の方向性	小中学校の再編		<p>小中カリキュラム連携や教員の人材交流、相互研鑽といったソフト面の連携、接続円滑化については問題ないと考えるが、施設一体化として小中学生同居の環境となると、小6時点で涵養すべきリーダーシップや感得すべき自己万能感といったものを獲得する機会を奪うことになりかねない。発達段階における重要な機会を奪うことは子供達の将来を奪うことになりかねず、取り返しがつかなくなる恐れが大きい。施設統廃合ありきで予算面の合理化の理論で強行すべきように感じられますが、施設一体型の小中一貫教育のこうした負の側面に関しては熟慮検討されているのでしょうか。</p>	<p>当然検討しております。義務教育学校というのはご存知でしょうか？国が進めているものなのですが、今までの六三制を大きく変え小学校の6年、中学校3年を六三制と言います。それを、4年、3年、2年で小中9年間の教育を考えて、カリキュラムを作って小中学校を編成します。そういった義務教育学校が全国ででき始めていますが、我々が目指しているのはその義務教育学校ではなくて、やはり小中一貫同じ9年間を考えたカリキュラムを作るわけですが、そこには一体型にするだけじゃなくて、隣接的にも教育ができるように配慮されております。それと義務教育学校ですと1校に1人校長とそれから教頭を置かなきゃいけない。それともう一つは、小学校・中学校の両方の免許を持ったものでないと義務教育学校は基本的に造れないです。ですが、小中一貫校ですと小学校と中学校それぞれに校長と教頭を置くことができます。一体型になったとしても置くことが可能です。また、免許に関して先程は教員が不足して大変だということもあるのですが、小学校の免許だけでもできる範囲の教育ができますし、もちろん中学校の免許を持っているものだけでもその範囲の中で指導ができます。今後、国も言い始めていますが、小学校の高学年5、6年生については、中学校のように教科担任制に徐々にしていこうという考えがあるみたいですが、これは既に掛川市では10年以上前から一部の小学校でも実施しております。今後、小中一貫教育を進める中で教科担任制教育ができるようにしていきたいと考えておりますので、その中でご質問いただいている負の面ですけれども、解消していきたいというのはその区切り方をどうするかということだと思うのですが、今研究しているところ少し参考にしたいと思うのは5年と4年で区切るということなんです。つまり、子供達が早熟で昔と違ってどんどん成長が早くなって発達段階も今までは小学校6年がピークで一番成長していると考えて教育してきたわけですが、今はそのリーダーシップも4年生ぐらいのところでも、かなり10年前やもっと前と比べてみるともう4年生あたりでできるような段階まできています。とすると義務教育、四三二という区切りで四年生で1回切って、そういうリーダー性を取得する、そういった教育をやることができます。掛川も小中一貫教育を考えているわけですが、そういったどこで切るかというのを、先程検討していると申し上げましたが、掛川市も五四制がいいのか、四三二制がいいのか、色んなところを併せて検討しております。つまり、これまでの六三制の枠にとられない、私ども新たな掛川型の小中一貫教育カリキュラムを作って施設も合わせて造っていくよう検討しているところでございます。</p>
121	城東中学校区	26	検討の進め方	計画策定時期		<p>公共施設の再配置案の修正を市民との情報共有、議論、ニーズ把握となっておりますが、説明会は今回限りなのでしょうか。来年10月策定となっておりますが、こんな短時間に十分市民の声を聞くことができるのでしょうか。策定を急ぐ理由を聞かせてください。</p>	<p>説明会の開催につきましては、現時点では未定でございますが、この地区説明会の他に、次第にもご記入させていただいておりますが、ホームページへのご記入でご意見をいただく他、FAXやメール等でご意見・ご連絡をいただきたいと考えております。</p> <p>また、策定を急ぐ理由ということですが、一応50年間の計画でございますが、50年間で平均毎年30億円、財源が不足するというはわかっておりますので、できるだけ早く策定をしたいと考えております。</p>
122	城東中学校区	27	再配置の方向性	少子高齢・人口減少		<p>○ 統合、複合、廃止が進めば地域はますます廃れ、結果さらに人口減少が進み、高齢者の町とならないか。市の方からすれば仕方ないかもしれないが、統廃合の代わりとしてのものを考えていただき、さらなる人口減少止めを考えてほしい。</p>	<p>少子高齢化の進展や社会経済状況の変化により、既存の公共施設では対応し切れていない市民ニーズが今後増加することも予想されます。今回の再配置については、それらの新しい市民ニーズに対応した新たな公共施設サービスを構築する機会であると考えています。現時点では、地域学習センター等のまちづくり協議会の活動拠点は、再編後の小・中学校への複合化を考えています。場合によっては、1つの学校に複数のセンターを統合する可能性もあります。</p> <p>現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地区で共同利用することで、1地区ごとでは持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも更に使いやすい施設にできると考えています。個々の統合・複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと思っています。</p>

123	城東中学校区	28	再配置の方向性	個別施設	レクリエーション施設	○	学校関係はともかく、福祉関係やレクリエーション施設等できてからあまり年月が経っていないのに、すでに廃止や譲渡を検討しているのに驚きです。はじめの考えが甘かったのか。たまりな12年、ならこの湯16年、シートピア19年等は地域の人の大切な憩いの場の一つです。市の役割として残すことも考えてほしい。温水プール等は子供等にとって大きな楽しみの一つになっているようです。	公共施設を再編する理由は、お金の問題と施設によるサービスの問題の二つがあります。施設の老朽化が進展している中で、今ある全ての施設を維持・再整備していくと年間30億円くらいが足りなくなります。施設の再編を行わないとすると、子育てや介護・医療等他の分野への投資を調整しなくてはいけなくなります。 また、施設の再編は古くなり利用実態に合わなくなった施設を、現在の市民ニーズにあった施設に再編することができる機会でもあります。この機会をチャンスと捉え、全体としての施設サービスの質を高めていきたいと考えています。施設の譲渡等については、市の関与を残しつつ公民連携を拡大し、民間ノウハウを最大限活かしてサービスの質を上げていただける環境を創り出したいとも考えています。
124	城東中学校区	29	再配置の方向性	防災		○	災害の時、小中学校が避難場所の拠点となるが、災害時のこと等どう考えているのか。	個々の再編を検討する際には、防災拠点をどのようにしていくかも同時に検討していきます。
125	城東中学校区	30	再配置の方向性	縮充		○	我が地域の施設の方向が見えない。小、中、幼の施設の複合化に何があるのか、今後可能となるのか見えない。	少子高齢化の進展や社会経済状況の変化により、既存の公共施設では対応し切れていない市民ニーズが今後増加することも予想されます。今回の再配置については、それらの新しい市民ニーズに対応した新たな公共施設サービスを構築する機会であると考えています。現時点では、地域学習センター等のまちづくり協議会の活動拠点は、再編後の小・中学校への複合化を考えています。場合によっては、1つの学校に複数のセンターを統合する可能性もあります。
126	城東中学校区	31	検討の進め方	情報共有		○	掛川市の公共施設の再配置について、市の方向は理解できる。ただし施設ごとの現在の役割と今後の方向、可能性がよく理解、想像ができない。過去の内容の明示と、今後の可能性を具体的にあげてほしい。	現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地区で共同利用することで、1地区ごとでは持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも更に使いやすい施設にできると考えています。個々の統合・複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと思っています。
127	北中学校区	1	説明会	運営			そもそもこの時間にやるのは誰のため？小さい子を持つ親（特に母親）は参加できない時間。将来を担う子供達を今育てている人達に知ってもらう必要があるのでは？	必要に応じて、その都度説明会等を開催していきたいと思っておりますし、説明会の他にも先程申し上げましたような市のホームページでのアンケート等を実施しております。電話やメール等でも結構でございますので、意見をお寄せいただければと思います。 また、個別の事業の際にも皆様から一つ一つご意見をいただくということになりますので、宜しくお願いいたします。

128	北中学校区	2	再配置の方向性	小中学校の再編		30人学級から25人学級にして教師の負担を削減して児童・生徒に向き合える状態ができることが必要ではないか。	<p>これは教育の指導のこともご心配いただいているかと思うのですが、基本的には国の学校教育法施行規則や県条例等で以前は40人学級、それだともいということで静岡県は35人学級ということで実施しております。1学級の人数の上限が決まっている中でクラス分けが行われております。ご質問いただいた少ない人数で先生1人あたりが見る子供の数が少ない方が指導が行き渡るということで、数の論理で言えば当然そうだと思います。ただ、枠組みが決められている中で、やれることとしては市が単独で予算を付けてということになろうかと思えます。今現在、予算があっても教員を確保することが非常に難しい状況であることを皆様にお伝えしたいと思います。これも大きな課題でございます。色々な業種の中で、人手不足が言われておりますが、教員も働き方改革のことを言われてから、学校の先生方はブラックだということをマスコミ等で言われていて、教員のなり手も非常に不足しております。このままでは、国や県の方も配置のところで困るわけで、何とかニーズを確保するとなると、教員の質を下げていく方法しかないわけです。でも、教員の質を下げると神戸で起きたような、あってはならないような事件がございましたけれども、やはり子供にとって絶対プラスになるはずはありませんので、そうならないギリギリの線で教員を採用しつつ、その学校の定数というのがございますけれども、子供の数に合わせて、教員の数を配置できる教員の数が決まっておりますので、そのギリギリのところまで教員を充てているという状況です。そこを1クラスの子供の数を少なくして、クラス分けをしてクラスの数を大きくして教員を充てたいのですが、先程言ったように教員がほとんど居なくて、現在欠員が出ているところもあったのが、やっとこの前解消したところで場合によっては70歳過ぎの方に教壇に立っていただいております。そういう現状です。ですから予算があっても人がなかなか付けられないというような状況をご理解いただきたいと思います。それと一定の集団規模の中で教育をこれからやっていくという中で、小中一貫教育を進める中で、これから子供達がどうい世の中になっていくかということ、皆様方もわかるようにすごい情報量があって、時代の流れが非常に早く変わっていきます。この先、もっと早く世の中の状況が変わっていくと思えます。そこで生きていくということに対して、やはりある程度今まで以上に生きる力と言ってきましたけれど、もっと強く生きる力が必要になってくると思えます。そうなってくると、ある程度の子供数の中で切磋琢磨するような教育環境というのは、どうしても必要になってきます。小中一貫教育を進める中でも、やっぱりそれが必要だという考えで教育委員会としては検討しておりますので、ある程度の集団規模、それは必ず取っていききたいと思っております。当然、先程言った教員が配置できる範囲の中でということで考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。</p>
129	北中学校区	3	再配置の方向性	小中学校の再編	検討の進め方	学校教育施設について再編計画がまだ出されていないにもかかわらず、個別情報を出して削減の対象としている。掛川市では小中一貫教育推進ということで統廃合を進めているが問題が多いと思う。城北小と北中学校の統合・複合化は、再編後の中学校の枠組みの中で検討しているが、どのようになるのか。	<p>先程言った再編のこともそうですが、全体を見て小中学校のいわゆる連携といった時には、なるべく施設が近いところまたは一体型の施設が望ましいということは考えています。個別にどうい枠組みで、今後小中一貫教育を進めるにふさわしい学校施設にしていくかということについては、再編の計画と併せて検討をしているところでございます。</p> <p>それから、その計画については、今現在、新たな学園づくり研究会というのを立ち上げまして、教育委員会だけではなくって商業の関係する部署プラス大学の有識者の方にも入っていただいて色々な視点から今検討をしております。来年度中には、先程の公共施設の再配置計画については、10月ということが出ましたができる限り教育委員会の方の学校再編計画につきましても、それに合わせて出せるように進めております。その時には、事前に市民の皆様にもご意見が聞けたらと思います。そのゆとりがどこまであるかということになろうかと思えますが、そういう方向で情報発信しながら案を詰めていききたいということで、進めておりますのでご理解いただきたいと思います。</p>

130	北中学校区	4	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的	<p>西郷小学校と倉真小学校が統合を検討すると言 うが、西郷小学校に統合するのか。複合化とは どういうことか。</p>	<p>倉真小と西郷小が統合するということについては、まだ決まっているわけではないですし、今 も検討しております。隣の学校と必ずしも統合させるという単純な考え方はしていません。 もっと広範囲にどのように考えるかということだと思います。私は、三笠中学校の出身で北中の 第1期生です。当時、東中学区からそれから西中学区から城北それから、水垂、初馬、そういう ところから集まって北中ができております。その時、学区のいわゆる再編が一部行われたわけですが、 全体を見てどういうふうの子供の数も変動するか地区ごと細かく見ております。ですから、 単純に倉真小学校と西郷小学校を統合するのかということですが、それはまだ決まっておられ ませんし、流れの中で地域に近いからということになるという可能性もゼロではございません。そこ についても、現在検討をしているという状況です。</p> <p>それから複合化ということで先程もご質問いただきましたが、基本的に学童施設については、 なるべく学校施設と一体にしていきたいということは教育委員会としても考えております。た だ、その他の公共施設の統合に関しましては、先程言いましたようにどのような公共施設が必要 なのかということで、教育委員会の方でも検討していくと思いますので、今現在はそのような状 況でございます。</p>
131	北中学校区	5	再配置の方向性	小中学校の再編	検討の進め方	<p>小中の統合・複合化について、具体的な方向、 時系列で説明が必要。</p>	<p>小中学校は市内31校ございます。小学校が22校、中学校が9校ございます。全ての小中学校について、今 現在、教育委員会で再編の検討をしております。現在進行形で進めております。その中で統合というご質問 ですけれども、市内の22校の小学校のうち、今現在、半分の11校がいわゆる小規模校で1学年に1クラスし かない学校です。小学校6学年ですので6クラスしかないという学校が22校中11校ございます。今の0歳児 が小学校入る令和7年度、その時には13校になる見込みであります。半分以上が小規模校というところで、 今現在、国が求めている教育方針からすると、適正規模・適正配置の考えからすると非常に苦しい状況とい うことになります。従いまして、今後再編の中で統合していく方向で検討をしております。複合化について は、先程、亀山市や松阪市の例が出ましたが、これについては市内のそれぞれの地域ニーズや特性もござい ますので、地域の皆様の要望を聞きながら、進めていくということになると思います。具体的な方向としま しては、一番の柱の施設ができるのがこれでいくと20年30年40年という長いスパンの中で作られていくわ けですが、子供はどんどん成長していきます。今の0歳児が50年後でも50歳になりますので、状況がガラッ と変わっているかと思えます。先程10年後ごとに色々見直しを図るということで説明がありましたけれど も、教育についてはもう子供の成長は待たなしますので、今現在、一番最適だと考えられる方向で教育の 中身についても進めております。それが何かというと、小中一貫教育でございます。これについては、平成 25年度から中学校区学園化構想がスタートしておりますけれども、もうその当時から小中一貫教育について は、もう検討を始めておりまして掛川市はもう既に30年以上前から保幼小中連携教育はずっとやってきまし て基礎ができてございます。それを基に、今後は連携から一貫という教育へ展開をしていきたいと思いま す。そのためには、ある程度子供の数が揃った学校教育施設を再編の中で造っていかないとはいけません 。方向としては、このように考えておりまして、時間的なものについては、先程出た資料3、大枠とし てはその中で担っておりますけれども、今現在、小中一貫教育研究を指定している原野谷学園または城東学 園、赤枠で囲まれているところが10年ということになりますので、早いところでその10年以内に小中一貫校 ができればという方向で進めております。</p>
132	北中学校区	6	再配置の方向性	個別施設	地域生涯学習セ ンター等	<p>原泉のセンターはどの程度まで使用できるか。 あと10年で使用できなくなるということす か。さくら咲く学校も20年で使用できなくな った後は、どうするのですか。</p>	<p>原泉センターとさくら咲く学校につきましては、安全に利用できるまで、あるいは利用できな くなるまでは活動をしていきたいと考えております。機能については、小中再編後の枠組みの中 で検討していきたいと思っております。また、原泉地区の皆様とよく協議をしながら検討してい きたいと考えております。</p>



133	北中学校区	7	再配置の方向性	個別施設	地域生涯学習センター等		Ⅰ期統合のさくら咲く学校と原泉センターの場合、木造の原泉センターは補強改築するのか解体をするのか。原泉センターはなるべく残してほしい。	
134	北中学校区	8	再配置の方向性	その他			スライドP8、公共施設の適正配置とあるが、なにをもって「適正」と判断するのか。各施設種別ごとに再配置基準を設けているならば説明願いたい。	資料4をご覧くださいと思います。資料4の右側、黄色く塗ってある施設、こちらが全市的に配置を検討していく施設。そして、緑色で塗ってある施設、これは各地域ごとに設置が必要である施設ということです。最後に赤い施設ですが、公民連携民間でもできる可能性があるということで公民連携を拡大することで、サービス水準の向上を検討する施設とこのように三つに分けて検討をさせていただきます。
135	北中学校区	9	再配置の方向性	官民連携の推進			譲渡があるが、市民にとって不都合（デメリット）はないか。	ご説明をさせていただいた中にもありましたが、公民連携を拡大することで、サービス水準の向上を検討してまいります。地域の皆様とご相談、検討しながら個別に慎重に検討していきたいと考えております。
136	北中学校区	10	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと	機能		今まであった施設の廃止はとても思い切ったことだと思う。どこかにしわよせがこないかと心配する。代替施設案などはあるのか。	ご利用いただいている皆様にとりまして、これは大切な点であると思います。機能につきましては、別の場所や形で提供できないかと、そのようなことを含め検討していきたいと考えております。いずれにしましても、個々の施設ごとに事業化を検討する段階においては、関係者の皆様としっかり協議をしていきたいと考えております。その際にも、ぜひご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。
137	北中学校区	11	説明会	説明内容		事例	再配置の例で、亀山市人口？学区内の人口？	亀山市の人口は約5万人でございます。小学校が11校、中学校が3校、学区内の人口と人口密度のデータは持ち合わせてないのですが、市全体の面積として191平方キロメートルですので、亀山市の人口密度は平方キロメートル当たり259.6人ということでございます。
138	北中学校区	12	説明会	説明内容		事例	学校と地域活用事例、課題はないのでしょうか。大学の構内のようにできるのか。	本日もご紹介いたしました事例では、利用者等の関係者でよく協議をして利用方法や役割分担等をしっかり決めていたとお聞きしております。安全管理については、基本的には学校が受け持っているということで、そちらの事例ではそうしているということ聞いております。
139	北中学校区	13	再配置の方向性	その他			そもそも学区に縛られた構想はなんですか。	地域づくりの観点も含め公共施設の再配置を検討するため、現在、掛川市では都市計画において、地域づくりの単位として中学校区をひと単位としております。それを中学校区ということをもとに今回中学校区という形でご提案を申し上げている次第であります。ご理解の程よろしくお願いいたします。
140	北中学校区	14	再配置の方向性	縮充			再配置方針の中で市は、施設の量は「縮減」、統廃合や複合化などでサービスの質的向上で「充実」ということですが、結果は質の低下につながるのではないかと心配される。公共施設の統合化は地域の衰退、生業が立ち行かなくなることが心配される。	そういうご心配もあろうかと思っておりますので、それについては丁寧にご意見を聞かせていただきながら、地域の拠点施設になるような機能、それから大きさ等、また地元の皆様と協議をさせていただきたいと思っております。今よりも地域に賑わいや交流を生み出せるようなものを作っていきたいと考えております。

141	北中学校区	15	再配置の方向性	個別施設	文化施設	文化ホール、スポーツ施設の統合は必要ない。各々その地域毎にあるべきでは？	そういったご意見もあるとは思いますが、これにつきましては、ある程度集約化するというこ とで、それぞれの地区・地域では持てなかった大きいホールや運動場が持てるのではないかと 思っております。そのような機能の充実というようなことを「縮充」しようということで、 本日まで説明を申し上げておりますので、ご理解をいただければと思います。
142	北中学校区	16	再配置の方向性	個別施設	ふくし館	福祉館などⅡ、Ⅲ期をもつての廃止とあるが、それまでに代わる地域活動の拠点はどのようなものを提供できるのか。	小中学校を拠点として、地域コミュニティー施設や学童保育所等を複合化して、新たな施設に 地域活動の拠点を整備してまいりたいと考えております。先程、説明者から2件の事例をご紹介 申し上げましたけれども、学校が地域づくりの拠点になったり、地域活動の拠点になったりとい うような複合化のイメージを持っております。
143	北中学校区	17	検討の進め方	市民意見	合意形成	地区ごとの個性、特徴をどう再編計画に反映させるか。ガイドラインを示す必要がある。検討 委員会など全市的に組織して地区連携を図る仕 組みが必要。	地域によって実情が異なると思っております。ですので、実際の再配置計画を事業化していく際 には、個別案件ごとに地域や利用者の皆様、関係の皆様等と丁寧に協議・確認をしながら、具体 的な検討を進めていきたいと考えております。
144	北中学校区	18	再配置の方向性	その他		今後、新設工事は単独ではないのか。	市民ニーズの変化に合わせて必要な施設サービスは提供できるようにしてまいります。 ただ、その際に複合化等の既存の施設の有効利用を検討しつつ、慎重に進めていきたいと考 えております。
145	北中学校区	19	再配置の方向性	目標設定	根拠	再配置方針の中で、公共建築物延床面積25%縮減。更新費など維持管理費を削減するとい うが、①縮減解体費、②地域ごとに複合化のため の施設づくりには、巨額の経費がかかるもの と思われるがいかがか。	再配置計画につきましては、基本的には耐用年数が到来した時に施設の複合化等を進めていく 計画としております。この50年間で、今ある施設（建築物）でございますが、次に再整備をする 費用が今現在のところ2034億円という試算をしております。このため、不足する財務を生み出す ために25%の面積を減らしていきたいという計画を立てているところであります。 継続の経費がかかるというご指摘でありますけれども、これにつきましては、施設面積の縮減 等の方法、あるいは色々な経常経費の削減、あるいは国や県の補助金等、あらゆる財源の確保と いうことも想定しながら経費の確保や財源の確保に努めていきたいと考えております。
146	北中学校区	20	再配置の方向性	計画の見直し		検討時期がⅠ期～Ⅴ期となっているが（最長今 後50年）、計画策定後の見直し、モニタリン グはどう行っていくのか。長い期間の中で社会状 況の変化に対応する方法は？	当然、色々な社会経済情勢やあるいは市民ニーズ、それから利用状況等の変化が大変多いかと 思います。この計画につきましては、10年ごとに見直しをしていく予定でございます。

147	北中学校区	21	再配置の方向性	個別施設	幼稚園		三笠幼稚園は譲渡を含めて検討となっているが、築9年の立派な建物であり、数少ない市立幼稚園である。民間譲渡して儲けの対象にするなど、公共の役割、公の責任を放棄しているのではないか。	<p>子供達を取り巻く状況でございますが、ご存知のとおり子供の人口は年々減少しております。また、幼稚園のニーズは減少しております。一方、保育園のニーズは年々増加しており、待機児童の問題が色々新聞等でも取りざたされている状況でございます。そういった状況の中で、三笠幼稚園につきましても、定員が160人のところ現在130人という状況でございます。今後も、今言った状況を考えて、園児数が減少していくかと考えております。そういった中で、今後どうしていったら良いのかということについては、認定こども園化をする等、民間への譲渡も含めてということでご理解いただきたいと思っております。</p> <p>また、民営化した幼保園、要するに公立幼稚園と私立の保育園等が再編された幼保園も今まであるのですが、そういった園につきましても園の教育、保育の方針等の園の状況は、子ども教育委員会・子ども希望部と一緒にそれぞれの園に訪問させていただいて、消防に状況確認をする等、市と民間の方が連携してより良い環境になるように取り組んでおりますので、ご理解いただければと思っております。</p>
148	北中学校区	22	再配置の方向性	個別施設	学童		倉真パンダひろばは譲渡を検討というが、どんなふうになるのか。倉真パンダひろばは学童保育施設として有効な施設と思うが、解体譲渡で財産処分していいのか。公共の役割縮小、公の責任を放棄しているのではないか。	あくまでパンダ広場の機能としては、維持していくことを現時点では考えておりますので、譲渡ということがイコール機能を無くすということではありませんので、誤解のないようにご理解をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。
149	北中学校区	23	再配置の方向性	その他			運営は外部への委託も多いのでは、今後も継続の方向でしょうか。施設管理の長に、市定年者の方も多いと聞きます。	民間事業者のノウハウを活かすために指定管理者制度を導入しております。今後、より一層民間のノウハウを活かしていくためにも、公民連携の拡大を図りながらサービスの質的向上に努めてまいりたいと考えております。
150	北中学校区	24	説明会	説明内容		事例	再配置事例の紹介において三重県は県の指導で行われているのか、市独自にとりくんでいるのですか。静岡県はどうなっていますか。	市が単独で行っている事業と聞いております。
151	北中学校区	25	再配置の方向性	交通手段			統合された場合、施設まで運行するバス等の計画はありますか。	これにつきましては、先程申し上げましたとおり色々なスクールバスの活用等に努めてまいりたいと思っております。
152	北中学校区	26	検討の進め方	市民意見	合意形成		「情報共有および市民ニーズの把握」の具体的なやり方は？「まちづくり協議会」等、地域の方針に沿って進められる方法を考えてみてはどうか。	<p>説明会の他にも市のホームページ、あるいは電話、FAXメール等で、多くの皆様のご意見をいただければと思っております。また現在、市のホームページ上にWebアンケートを掲載しております。ぜひご回答いただければと思っております。</p> <p>それぞれの各施設の事業化の段階につきましては、実際の再配置を事業化する際に、個別案件ごとに地域や利用者の皆様等と協議しながら、具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。皆様のご意見については、丁寧に対応させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>

153	北中学校区	27	検討の進め方	市民意見	合意形成		10月の広報には「市民のニーズ把握、情報の共有のための地区説明会開催」とあります。計画を推進、具体化するための策定は地域の説明会や市民アンケート調査などを通じて、ニーズ把握に努めるとあります。地区説明会は今回限りなのか、市民アンケート調査をやるのですか。
154	北中学校区	28	検討の進め方	市民意見	合意形成		<p>特定の公共施設で市民が納得できないときはどうするのか。「計画ありき」ではないか。地域や市民との合意が前提ではないか。時間を取り、地域や市民との合意形態が必要です。</p> <p>地区の説明会等につきましては、必要の都度また開催をさせていただきたいと考えておりますし、地域の皆様、それから利用者の皆様、多くの世代の皆様にご意見を多数聞かせさせていただきたいと思っております。</p> <p>それについては、市の方に直接お寄せいただいたり、電話でもメールでも結構ですし、今のホームページでご意見を記入できるようなページを作っておりますので、インターネット環境のある皆様につきましては、そういった中でご意見をお寄せいただければと考えております。また事業化の段階には、個別の施設を検討する際には、より一層綿密な説明が必要になってくると思っておりますので、そういう点については配慮していきたいと考えております。</p>
155	北中学校区	29	再配置の方向性	個別施設	地域生涯学習センター等		<p>西郷センターと倉真センターの統合は、一方の施設に統合するのか。または新しくセンターを新設するのか。統廃合で施設サービスの質的向上が図られるというが住民の利便性が損なわれるのではないか。</p> <p>あくまで現時点でございますが、地域生涯学習センター等のまちづくり協議会の活動拠点につきましては、再編後の小中学校への複合化を考えております。場合によっては、一つの学校に複数のセンターを統合する可能性もあります。現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地区で共同事業をすることで地区ごとでは持てなかった大きい部屋を整備できたり、今よりも使いやすい施設にできるのではないかと考えております。</p>
156	北中学校区	30	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係		<p>複合化（小中学校の）が多く考えられているが、学校がなくなると地区は寂しくなるのではないか。</p> <p>地域が衰退しないようにご相談させていただきたいと思っております。施設については、面積が減ったり、少し距離が離れたり、色々なことが出てくるかもしれませんが、地域ごとに施設を集約し、これまでの施設では成し得なかった多目的な利用とか複合化を地域の皆様の賑わいという視点で整備していきたいと考えております。</p> <p>少子高齢化の進展や社会経済状況の変化により、既存の公共施設では対応し切れていない市民ニーズが今後増加することも予想されます。今回の再配置については、それらの新しい市民ニーズに対応した新たな公共施設サービスを構築する機会であると考えています。現時点では、地域学習センター等のまちづくり協議会の活動拠点は、再編後の小・中学校への複合化を考えています。場合によっては、1つの学校に複数のセンターを統合する可能性もあります。</p>
157	北中学校区	31	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係		<p>小学校を複合化するということは、遠方に通うことになるということになると思うが、地元への愛着、地域の人とのふれあいが薄れることが懸念される。行末は地元離れ、過疎化地域はより一層、過疎化が進むのではないか。</p> <p>現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地区で共同利用することで、1地区ごとでは持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも更に使いやすい施設にできると考えています。個々の統合・複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと思っております。</p>

158	北中学校区	32	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと		<p>いろいろな施設がバラバラにあるのは確かに財政的に厳しいと思うが。なくなる地域にとってはますますさびれる。（大東地区、横須賀地区のようにコンパクトシティとしてまとまるのは必ずしも良いとは思わない。</p>	<p>先程お答えを申しあげましたが、小学校の複合化ということですが、施設自体は減ったり、遠くなったりするということがあるかもしれませんが、地域ごとに施設を集約し、地域拠点とすることで、今よりも地域に賑わいや交流を見出しまちづくりの核とすることを目指していきたいと考えております。</p> <p>それから移動手段の関係でございます。先程のスクールバスの関係で少し申し上げましたけれども、それについては、色々な昼間のスクールバスの活用ですとかあるいは他の交通手段等を含めて色々手段を確保していきたいと考えております。まちづくりの拠点をどうするかということは大変重要な観点でありますので、ここの再編統合等につきましては、その点も踏まえて検討をしていきたいと考えております。</p>
159	北中学校区	33	再配置の方向性	個別施設	学童	<p>学童保育の統廃合が出ていますが、学童保育所に預ける人が増えています。なぜ統廃合がでくるのですか。拡充することが必要ではありませんか。指導員の待遇改善をすべきではないか。</p>	<p>学童保育所については当然ですが、児童の安全の面から小学校内に配置することが望ましいのではないかと考えております。</p> <p>需要につきましては、ご指摘のとおり年々変わってきておりますので、学校の再編時には小学校との複合化を検討し、適正な規模を確保したいと考えております。</p>
160	北中学校区	34	説明会	参加者		<p>この会の対象は区内役員様だったのか。女性の姿が3人しか見えないが、私も何の役員ではないが。再編によりどのような新掛川市が生まれてくるのか、興味があるので拝聴したかったのですが…</p>	<p>これについて多くの市民の皆様へ説明会の方にお出掛けをいただければと思っております。また、多くの世代の皆様にもご意見をいただきたいと思っておりますので、今日の説明会の他にもインターネット上で色々なアンケート等を行っております。色々なご意見・メール等でも結構でございますので、掛川市の方にお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
161	北中学校区	35	再配置の方向性	個別施設	文化施設	<p>文化ホールの統合については、文化に触れる場を多くすること、距離的に考えれば掛川市で1カ所では無理ではないか。大ホールは2カ所は必要です。</p>	<p>現時点につきましては、このホールについて、どのように配置をするかということはまだ決定しておりません。市内の地理的なこととか、近隣市町の施設との関係等を考慮しながら、第4期になります30年後から40年後の間に検討してまいりたいと考えております。その際には、その時点の利用状況や市民の皆様のご生活圏等を再度確認してということになると思います。</p>
162	北中学校区	36	再配置の方向性	個別施設	幼稚園	<p>すこやか幼保園をそのままにされる意味を教えてください。後からできた三笠幼稚園、さかがわ幼稚園を譲渡方針との差異。何か意味があるのでしょうか。</p>	<p>すこやかは認定こども園ということで、0歳から5歳までの子供達をお預かりしております。子供達の状況でございますが、医療的ケア等の支援を要する子供達が非常に増えております。そういった子供達を受け入れる施設が公立として必要であると考えております。三笠幼稚園やさかがわ幼稚園は幼稚園なので、0歳から2歳までの子供達に対応するような施設整備になっておりません。すこやかについては0歳から2歳までも対応しておりますので、そういった意味ではすこやか最良であると考えております。</p>
163	北中学校区	37	再配置の方向性	その他		<p>建築物の耐久年数の根拠は？（木造で30は短いのでは？）長寿命化でどの程度まで耐久年数を延ばせるのか。</p>	<p>総合管理計画を策定する上で全国共通の基準を用いて、一律の条件設定をさせていただいております。当然、建物ごとに多分違うということはあるかと思いますが、便宜上計画を策定する上で一律の条件設定をさせていただいております。</p>

164	北中学校区	38	再配置の方向性	個別施設	健康		たまり～なのプールの廃止の理由は？たまり～なのプール、お風呂はあそこにゴミ焼却場、つまり、迷惑施設を建てる見返りではないか。それを12年で廃止とは約束が違うではないか。	本日の北中学校区の施設ではありませんが、東中学校区のたまり～なの施設、温水プール、温浴施設の機能についてのご質問であります。たまり～なのプールにつきましては、設備の更新時期を迎え、不具合が出始めております。従いまして、この不具合が出始めているタイミングに合わせまして、施設の利用者の方にとってより良い施設になるように、利用者の皆様と協議しながら検討を進めてまいりたいと考えております。
165	北中学校区	39	再配置の方向性	交通手段			統合した場合、交通手段はどのように考えているか。	統合等によって利用される施設が遠くなると、車のない子供達や高齢者の皆様が施設に行きづらくなる、足の確保が心配というようなことのご質問かと思えます。ご指摘のように施設までの距離が遠くなってしまふ場合は、例えば児童や生徒に関してはスクールバスでの対応が考えられます。 また、例えばですけれども、そのスクールバスの昼間の空いている時間帯の場合には、高齢者の方や一般の市民の方に利用していただくというような方法をこれから検討していきたいと考えております。
166	北中学校区	40	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと			高齢化の進展に医療・福祉予算が膨らむことは理解できるが、その部分を膨らませない先取りの施設提供などになる健康増進を図る施策は検討されているか。エコパのトレーニングルームは70歳以上無料、さんりーなどももっと利用しやすくできないか。	健康増進政策というのをご指摘のとおり、大変重要な視点であると思っております。先だって掛川市の人生100年時代構想を策定いたしましたして、健康づくり、これについてパンフレット等を作成いたしましたので、ぜひご覧いただければと思います。 具体的には掛川市としましては、まちづくりの三つの日本一の中に健康を掲げまして、お達者市民を作るための政策等を鋭意進めているところでありますので、それにつきましても地域の中で、それぞれまたそういう協議会の皆様やふくしあ等、あるいは健康医療推進課等にお問い合わせいただければと思っております。
167	北中学校区	41	説明会	説明内容		事例	学校と地域との共有ゾーン、フラット議論について、それだけ広範囲なスペースが必要かと思う面もあります。学校の生徒や教師と一般社会人との間でのイジメ・パワハラなど危険対応処置処理は万全でしょうか。	ご質問はそれほど広い面積は入れないというご指摘でしょうか。 先程の質問の回答と少し重複する部分がございますけれども、複合化を良い形とするためには、様々な課題に対して関係者の皆様とよく協議をして、対応を一つ一つ検討していくのが重要だと考えておりますので、そのように進めてまいりたいと思っております。今回の複合化というものは、学校の事例を紹介いたしましたけれども、多目的多機能というのがベースでございます。それぞれの利用者の皆様が納得いただけるような形で事業化していきたいと考えております。よろしく申し上げます。
168	北中学校区	42	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと		○	広域化による地域文化、コミュニティが保たれるのか。（伝統・文化の維持はどのように考えているのか。）	広域化によって地域文化やコミュニティが衰退しないように、ご相談させていただきたいと思っております。施設については、面積が減ったり、少し距離が離れたり色々なことが出てくるかもしれませんが、地域ごとに施設を集約し、これまでの施設では成し得なかった多目的な利用とか複合化を地域の皆様の賑わいという視点で整備していきたいと考えております。 また、地域文化やコミュニティについては、地域によって実情が異なると思っております。ですので、実際の再配置計画を事業化していく際には、個別案件ごとに地域や利用者の皆様、関係の皆様等と丁寧に協議・確認をしながら、具体的な検討を進めていきたいと考えております。

169	栄川中学校区	1	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係	栄川中学校区で小学校統合すれば、地域としてどのようにとらえればよいか。	<p>教育委員会としては子供ファーストということで、子供を第一に考えて、教育ができるように検討進めています。説明にありましたように財政上の問題だけではなく、本当に子供にとってより良い教育を進めるにはどうあるべきかということで、色々な有識者の方々にもご意見いただきながら、教育委員会だけではなく検討を進めております。特に、少子化の影響で全国的に子供の数がどんどん減ってきておまして、それぞれの学校の中で栄川中学校区もかなり減少してきているわけですが、そういったことを考えた時にやっぱりどう学校再編していくか、ある程度小学校・中学校、全体で統廃合していくことはやむを得ないと考えております。これは栄川中学校区だけではございません。掛川市内に31校の小中学校ございます。そのうち小学校は22校ございます。今現在、22校の小学校のうちの半分、11校の小学校が1学年に1学級しかありません。つまり、小学校ですと6学年ありますので6学級しかないということです。栄川中学校区と言うと、日坂小と東山口小がもちろんその中に含まれます。これは普通学級だけです。特別支援学級を除いて普通学級が1学年1学級しかない、それが市内22校のうちの半分の11校というのが現状です。これが、令和7年に生まれた子供が小学校入る時には13校になると推測しております。さらに半分以上がそういう状況になってしまいます。そうすると更に学校によっては、1学級の中でも数も減っていくという状況です。適正規模、適正な子供の数からすると、教育環境としてはあまり望ましいことではないのかなと思います。そういうことも踏まえながら、今現在、どう学校を再編していくかということをもう2年近く検討しております。</p> <p>先程、小中一貫教育のことを話しましたが、建物があってもその中身ですね、教育がしっかり充実しなければならぬということで、掛川市としましては3年前に小中一貫教育の研究指定を原野谷学園、原野谷中学校区とそれから南の城東中学校区で研究をしまして、3年間の研究が今年終わりました先月11月に二つの学園から発表がございました。原野谷学園の校長先生にその3年間の研究成果を発表していただいたわけですが、その成果を元に今度は市内の9つの中学校区で小中一貫教育ができるようなカリキュラム編成を行っています。カリキュラムとは9年間を見通した学習がどういうものが良いのかということ、掛川ならではの教育できればということで研究を進めております。それができれば、その新しい学校施設と合わせて、それなりの子供の数がやっぱり編成できれば、教育効果はかなり出るということで大学の先生方にもご意見いただきながら進めているというところでございます。ですから、そういった状況になっていく時には、それぞれの中学校区でもっと細かい具体的な説明を、皆様に私どもからして、また皆様からご意見いただきたいと思っております。例えば昨年、中学校区に小中学校はどうあるべきかなってということもさらに踏み込んで検討していきたいと思っております。</p>
170	栄川中学校区	2	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	小中学校の統合の話が説明中あったが、中学校の統合もあるのか。	<p>現在、教育委員会の方では小中学校全て31校市内にございますけれども、その学校の再編について研究・検討しております。基本的に先程説明があった中学校区単位で学園と言っております。市内に9つの中学校がございまして、その中学校区ごとで小中一貫校を造っていきたいということで検討しております。ただ、その小中一貫教育を進めるにあたりまして、その子供の数・適正な数が必要となってまいりますので、そういった教育ができるかどうか、そういった規模になるかどうか、確保できるかどうか、そんなことも課題として取り合っておりますので、そこを含めて研究を進めております。</p> <p>この小中一貫校を造るにあたりましては、当然1中学校区だけのことではなく、市内全体で考えていかなければなりません。例えば、市街地ですと子供の数が多くとやはり規模が大きすぎてしまい、望ましい小中一貫校教育ができないということもございまして、全体のバランスを考えて再編ということを考えております。</p>
171	栄川中学校区	3	再配置の方向性	官民連携の推進		「譲渡」で民間サービス機能は維持向上できる保障は？民間企業は利益優先が原則。	<p>民間企業の利益は確かに優先されます。あと、市民の皆様の利益、この辺をよく調整しまして、両者が良いところを探っていくということが重要だと考えております。そのために、企業様等と何度も対応をしながら検討を進めてまいりたいと考えております。</p>
172	栄川中学校区	4	検討の進め方	計画策定期		平成17年、18年頃に（少子高齢化はわかっていたのに）再編計画をしなければならなかったのに、なぜ今頃になって計画なのか。（計画の遅延か。）	<p>高度経済成長期に整備をした施設が、耐用年数を迎えてきているということが背景にございます。遅いというお考えもあるとは思いますが、掛川市の場合には平成12年に1市2町が合併をしまして、最初に合併の事業、新市としての融合を目指した事業を進めてまいりました。</p> <p>現在では、そういう時代背景、耐用年数の関係、それから財政状況の関係、投資経費のことを含めようやく手を付けられる段階になったということでご理解をいただければと思います。</p>

173	栄川中学校区	5	再配置の方向性	財源不足	原因		行政が何をしたから、または、何をしなかったから、こういう財政状況になったとお考えですか。	少子高齢化を主因として、社会保障関係経費の増加が右肩上がりで行われております。そういう中でそれぞれの地方自治体では、行財政改革を推進し経費の削減に努めてきているところではあると思います。これについては、何をしたから何をしなかったからということ、なかなかお答えをしにくいのですが、財政状況は社会的・経済的な背景もあるということでご理解をいただければと思います。
174	栄川中学校区	6	検討の進め方	市民意見	合意形成		施設ごとの時期の明記があるが、その時期に改めて、各関係者を集めて、説明・意見聴取はあるのか。	再配置計画は、あくまでも各施設の再配置検討の時期や方向を示すものでありますので、実際の再配置を事業化していく際には、個別施設ごと個別案件ごとに地域の皆様や利用者の皆様等の関係者と協議をさせていただきながら具体的な検討を進めてまいります。
175	栄川中学校区	7	説明会	説明内容		事例	三重県の小学校の事例が1つだけ紹介されました。築5年程経つようですが、外観はとても良さそうです。使っている方々（学校職員・地域住民）の声（賛否共）を紹介していただきたいと思っております。	建設前から学校と地域住民の話し合いの場が設けられまして、ご紹介しましたとおりワークショップ形式で学校を中心とした複合施設のあり方が議論されていまして、円滑に運営がされていると伺っております。
176	栄川中学校区	8	再配置の方向性	目標設定	根拠		統廃合の流れの中で、集約化を図る上で、どの程度新築の施設を造ることが可能なのか。新たに造れば、20億、30億という縮減額はすぐに消えてしまうように思えるが。	現状、今と同じような形の施設の枠組みで造っていけば、当然、基本的には単独の新設というのは大変厳しくなっていくと考えています。新たな機能が必要になった場合には、既存施設を複合化していくことで面積等の調整をする中で、財源の確保も進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
177	栄川中学校区	9	再配置の方向性	財源不足	試算		将来の更新費用「70億円」という数字の「将来」とは、ある期間を区切って必要な額のことですか。それとも1年間ですか。	この将来更新費用については、今後50年間、毎年70億円必要になると試算をしております。計画の策定段階から50年間ということで試算をさせていただいておりますので、よろしく願いいたします。
178	栄川中学校区	10	再配置の方向性	官民連携の推進			資料2の公民連携の拡大とはどんなイメージでしょうか。市と民間業者のイメージですか。市民が運営の主体あるいは一部を担っていくのは想定されていますか。	民間の会社だけではなく、NPO団体や市民団体の施設によってはあり得ると考えております。良いサービスを提供する、利用者の方に満足いただく観点から皆様とご相談しながら、個別の案件について進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
179	栄川中学校区	11	再配置の方向性	地域コミュニティ			地域生涯学習センターは、地区の集会、会議室の機能がある。栄川中学校区の中で東山、日坂、東山口は離れていて、それぞれ存続するのが望ましい。（維持複合化の中で）万が一、統廃合する場合、自治会の再編もあるのか。	地区の再編についてご質問だと思いますが、これにつきましては、現時点では例えばですけれども、地域生涯学習センター等のまちづくり協議会の活動拠点については、再編後の小中学校への複合化を考えております。場合によっては、一つの学校に複数のセンターが設置されるという可能性もあると思います。ご質問のように離れている場合どうするのかということもございまして、現在地よりも遠くなる可能性もあります。そういうこともあります。移動手段を確保できるようなことを考えていきたいと思っております。 それから、それぞれの地区に存在するかということですが、現段階で、自治会、まち協、あるいは地区の再編のことについては考えておりません。
180	栄川中学校区	12	再配置の方向性	その他			地域の賑わいとは、具体的にどういうことか。	地域の様々な世代の方が集うような場をイメージしております。多くの方が集い、交流するような地域の拠点になることで、公共施設の維持や商店等の民間施設の維持に繋げていきたいという考え方をしております。



181	栄川中学校区	13	再配置の方向性	縮充			「縮充－質の向上」について、今より具体的にどのような点が、どのように向上されるのか。	施設につきましては、減ったり遠くなったりするかもしれませんが、地域ごとに施設を集約して地域の拠点を創出していきたくと考えております。今よりも地域に賑わいや人々の交流を生み出し、まちづくりの核となることを目指していきたくと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
182	栄川中学校区	14	検討の進め方	市民意見	合意形成		議論する場ではなく、一方的説明と質問の一方通行の場でしょうか。今後、またやるのでしょうか。	今日最初に司会から申し上げましたとおり、今回このような記入形式にさせていただきましたのは、できるだけ多くの皆様からご意見を頂戴したいというような主旨でございます。一方通行とお受けになる方もいらっしゃるかもしれませんが、もしよろしければ、何度でもご質問と言いますか、アンケートの方でご記入いただければ、私どもの方にご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
183	栄川中学校区	15	検討の進め方	市民意見	合意形成		公共施設再配置計画策定へのプロセス、話し合い等のスケジュール、枠組みについて？	これについて、おっしゃるとおりだと思っております。これにつきましては機会を得て、その都度、説明会の開催をさせていただいたり、あるいは、市の方で各種アンケートやインターネット上やそれぞれの施設の方、あるいは法人をお願いしまして、これから進めていきたいと思っております。ぜひ多くの皆様にご意見をお寄せいただく中で、個別のそれぞれの地域事情や利用されている方の実情等を話し合いや協議の場を作って吸収していきたくと思っております。よろしくお願いいたします。
184	栄川中学校区	16	再配置の方向性	財源不足	試算		公共施設の将来更新費用70億円、用意できる財源40億円の算出根拠を知りたい。生産年齢の減少、少子高齢化の傾向は理解できるが、例えば定年延長や高齢者雇用、経済成長など、50年先までどのように予測したのか。	平成28年3月に本市では、公共施設等総合管理計画というものを策定し、将来の公共施設の更新費用を試算しました。その試算によりますと、今後50年間に今ある公共施設を維持更新していくのにかかる費用は、1年あたり70億円ということです。 このように70億円かかるということに対して、現在の社会保障費の増加等を考慮すると、維持更新に充てられるお金は1年あたり40億円程度となるというものであります。これについては、50年間の推計ということでございますが、この公共建築物にかかる工事費用は、50年間で2034億円という推計を立てております。公共建築物の更新費用に用意できる財源は430億円という試算をしております。これによりますと、今後50年間の不足額は、2034億円－430億円ということで、1604億円となってまいります。それを全体の床面積を削減することで、費用を捻出していきたくというのが今回の説明趣旨でございます。
185	栄川中学校区	17	再配置の方向性	縮充			今回の公共施設の見直しの理念は？	基本的な理念は縮充ということで、先程ご説明をさせていただいた内容でございます。公共施設の財政的な理由がありますが、それだけではなくと考えておりますので、この機会に複合化等によって機能が充実していくことも進めていきたくと考えております。

186	栄川中学校区	18	再配置の方向性	財源不足			市全体の予算、年間30億の不足。年間予算約500億のほかの分野における行財政改革の取り組みの余地もあると思う。国の方では、高齢者医療費の負担が1割から2割へ見直されていく。市においてもタブー抜きで行財政改革を進めてほしい。そして、本日資料にもあるように「社会経済情勢、市民ニーズ、進捗状況を踏まえ10年ごとに計画を見直す」と書かれている。その部分に通ずる話だと思うがどうか。	掛川市では平成21年度に第1期の掛川市行財政改革審議会を設置しまして、これ以降第5期まで進めてきております。経常的な経費の削減も進め、職員も削減したり、委託料等も削減したところでございます。そういう取り組みについても、お知らせをさせていただきたいと思います。
187	栄川中学校区	19	再配置の方向性	財源不足	原因		財政危機の原因は？	少子高齢化等を主因としまして、現在、社会保障費が毎年大変増加をしております。具体的な数字を申し上げますと、平成20年度決算で41億5000万円、平成30年度決算では82億3000万円の社会保障費扶助費になっておりまして、10年間で簡単に言うと2倍に増加しております。 このようなことで簡単にいいますと、41億円が2倍になっているというような財政運営の現状にございます。財政危機の原因というのは、主にそういったこと人口の増減の変化ということが大きく関係しているのではないかと考えております。
188	栄川中学校区	20	再配置の方向性	財源不足	試算		歳入試算の根拠は？50年予測？経済成長の見込み？	現時点での状況を踏まえ予測したのになりますので、10年ごとに社会経済情勢や市民ニーズの変化、進捗状況等を踏まえながら見直していく予定です。
189	栄川中学校区	21	再配置の方向性	計画の見直し			今後、市の財政が、仮に良い方向に向かった場合は修正されるのか。逆の場合は時期を早めるのか。	50年間のスパンでの計画ということについて、現状と違った財政状況等になった場合ということかと思えます。これにつきましては、50年という非常に長い計画期間になりますので、本計画については、10年ごとに社会経済情勢や市民ニーズの変化、それから進捗状況等を考慮して見直しをしていくということでございます。
190	栄川中学校区	22	検討の進め方	市民意見			他施設への複合化の案はいつ頃、示されますか。	現在、小中学校の計画については検討中であります。今年度中に再編案をまとめ令和2年度に公表し、市民の皆様からご意見をいただきながら、来年度中に学校再編計画をまとめていく予定でございますので、複合化の案もその時にお示しできればということでございます。
191	栄川中学校区	23	検討の進め方	市民意見			3地区のセンターは小中学校へ複合化、小中学校は統廃合となっているが、もう少し具体的に説明してもらいたい。	これにつきましては、現時点では、例えば地域生涯学習センター等のまちづくり協議会の活動拠点については、再編後の小中学校への複合化を考えております。場合によっては、一つの学校に複数のセンターが設置されるという可能性もあるとは思いますが、現在地よりも遠くなる可能性もあります。そういうこともあります。移動手段を確保できるようなことを考えていきたいと思っております。
192	原野谷中学校区	1	説明会	説明内容		事例	三重県亀山市川崎小学校の生徒数は？地区の人口は？	児童の数については、川崎小学校450人です。地区の人口は、川崎地区は6,697人ということでございます。
193	原野谷中学校区	2	再配置の方向性	防災	防災拠点		新しい施設をつくる時に、災害時に対応することについてどのような考えをお持ちでしょうか？	避難所の考え方、大切な視点かと思えます。それぞれのプランの中で、個々の再編を検討する際には、防災の拠点をどのようにしていくかということも同時に、地域の皆様等とご相談させていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

194	原野谷中学校区	3	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと			新しい施設をつくる話はたくさん聞きましたが、高齢者が集える福祉的要素を含んだ施設の建設の話が聞かれませんでした。なぜでしょうか？	大切な視点だと思います。多くの世代が集える場所については、地域に必要な機能であると思います。地域ごとに学習センターや小中学校等を再編整備していく際には、それぞれの地域の皆様とよく相談させていただきながら、このような高齢者が集える福祉的要素というような機能も確保、検討していきたいと思います。よろしく申し上げます。
195	原野谷中学校区	4	再配置の方向性	各地域の平等性			延床面積の縮減目標約25%は、全中学校区均か？トータルか？	縮減目標の25%につきましては、市域全体で考えております。トータルでございます。それぞれ中学校区ごとに設置をしている施設の状況が異なりますので、今回の再編の方針の中では、最適化するという視点でそれぞれの再編プランをお示ししておりますので、中学校区によって削減率にはばらつきがございます。トータルで25%の削減を確保していきたいということで予定しております。よろしく申し上げます。
196	原野谷中学校区	5	説明会	説明内容			資料3の原野谷中学校区の小中学校の項の原野谷中学校RC築37年はRC築58年の間違いではないか。昭和36年には校舎ができていたはずなので。	資料3については複数棟ございますので、築年数の加重平均値というもので表しております。もしよろしければ、本日配付をさせていただきました、資料5がございしますが、資料5の3ページに各棟の築年数を掲載しております。少し資料3の表記の仕方がわかりにくくて申し訳ありません。こちらの資料5の3ページをご覧くださいと思います。こちらをご覧くださいますと、校舎南棟は1961年の3月の建築ということで、58年の築年数が経過しております。面積が2,225㎡ということになります。それから屋内運動場は2010年の2月に建築をしまして、築年数は9年、面積は1,308㎡ということで全体で4,735㎡の面積を原野谷中学校は保有しているということでございます。よろしく願いいたします。
197	原野谷中学校区	6	再配置の方向性	交通手段			新しい施設を利用するには、道路が必要になりますが、子供も高齢者も安全に利用できる道路整備は考えていますか。現在の道では子供や障害者は利用できないと思いますが。	全体条件として施設が遠くなった場合、先程少し申し上げましたように移動手段の確保というのは検討していきたいと考えております。ご質問いただきましたように、徒歩での移動というようなことを想定される場合については、場合によっては歩道の整備や歩行者の安全確保というのは必要になってくると思います。地域に必要な施設やインフラのことについては、安全性という視点できちんと整備していきたいと考えております。
198	原野谷中学校区	7	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的		原野谷中学校区の人口減少、少子化も進む中、当地区が活性化すると期待している小中一貫校は完成していただけるのか。当地域の発展のため尽力していただきたい。	小中一貫校を教育委員会は進めていきたいと思っております。そのために小中一貫教育を実現するため、研究指定を原野谷学園と城東学園の二つの学園で進めてまいりました。それは、中身の研究を活かせるような施設に今後していきたいと思っておりますので、皆様のご期待に答えられるように小中一貫校の実現に向けて進めていきたいと思っております。
199	原野谷中学校区	8	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的		原野谷中学校区の検討に入る時、小中一体校の考えは活かしていただけるのでしょうか。活かしてもらいたいです。	今日の自己紹介の時に申し上げましたが、平成29年の12月から平成30年度にかけて、原野谷中学校区の小中一貫校の地域検討委員会を開催して皆様と協議をいたしました。ふさわしい施設のあり方ということで検討してきたわけですが、その時に原野谷学園では一体校が望ましいということで報告を受けております。ですから、その地域の協議会で出された報告を基に教育委員会としましては、小中一体型の一貫校ができるかということで考えております。 ただ今日、公共施設の説明がございましたように公共施設を増やしていくというわけではございません。複合的に考えていく方向でおりますので、こういった施設がこの地域では必要なのかというようなことも今後検討していくということになりますので、その辺についてはもう少し時間が必要なのかなと思います。一体型の考えは活かしていきたいと思っております。

200	原野谷中学校区	9	再配置の方向性	その他			新東名と原野谷の地域づくりを市として、どのように考えているのか。	これにつきましては、都市計画マスタープランもご覧いただければと思いますが、森掛川インターチェンジから南に向かいまして、優良農地の保全と耕作放棄地等の有効活用を検討していきたいとか、あるいは仮称でありますけれども、掛川の西環状線や北環状線の整備・形成のこと、それから地域生活拠点を連携する幹線道路の整備のことを考えております。 当然、それだけではいけませんので、原野谷川等の河川の保全やまちづくりへの活用や身近な自然の保全と活用等の推進をしていきたいと思っております。 また、皆様がお暮らしになる時に、防災拠点の整備や地域防災体制の強化というのも非常に重要な視点になってまいりますので、ご質問をいただきましたことにつきましては、都市計画マスタープランの中では今申し上げたようなことで計画しているということで、ご理解いただければと思いますので、よろしく願いいたします。
201	原野谷中学校区	10	再配置の方向性	その他			掛川市の課題解決法として掲げている、または計画していることは何か。	本日も説明させていただきました中で、少子高齢化や財政状況等色んな課題はございます。人口減少社会に立ち向かうというようなことの中で、掛川市が進めるまちづくりは協働のまちづくりを基本に掲げております。自治基本条例を平成25年に制定をいたしまして、それぞれ地域に地区まちづくり協議会を立ち上げていただいて、そういう皆様のお力で支えていただきながら、掛川市を創る、課題を解決していこうというのが掛川市の基本的な考え方でございます。よろしく願いいたします。
202	原野谷中学校区	11	再配置の方向性	跡地・空き施設			跡地の利用計画は具体的な案があるのか？	跡地につきましては、原則として不要な建物や土地は譲渡・売却することを基本に考えております。ただし、再配置を検討する際に、同時に跡地の方向性についての皆様と協議をしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
203	原野谷中学校区	12	再配置の方向性	交通手段			廃止検討で交通弱者の移動は？	再編あるいは再配置によりまして、今の土地、立地から少し施設が遠く離れてしまうのではないかとのご心配かと思っております。こういった場合、掛川市では移動手段を確保する手法を考えていきたいと思っております。 例えば、仮にスクールバスが運行するようになれば、朝は生徒・児童さんが乗っていただいて、昼間の時間帯には高齢者の方ですとか、あるいは子育て世代の利用の方法とか、そういったようなことも含め足の確保の検討していきたいと思っております。
204	桜が丘中学校区	1	再配置の方向性	個別施設			当地区には、県の施設ですが、あすなろがあります。県の施設と共同運営することは難しいですか。	大変素晴らしい着眼点だと思います。施設の適正な総量を確保するためには、県有施設や近隣市と広域連携を当然研究していくことが必要になってまいりますので、このようなことの可能性も検討していきたいと思っております。
205	桜が丘中学校区	2	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと			掛川市と同じ規模の市をベンチマークしていますか。どの市をねらいにして、こうだと説明していただければ納得しやすい。	平成28年3月に公共施設等総合管理計画を策定する中で、多種の事例の確認をしております。県内の事例でございますが、掛川市の全公共施設の面積が45万平方メートルでございます。1人あたりの面積については3.88平方メートルということで、県内では1人あたりの面積が5番目に多い面積ということになっております。とは言いましても、1人あたりの面積が多いのは御前崎市や熱海市等で人口規模の比較的小さい市が中心になっております。人口規模の近い藤枝市は、公共施設の面積31万平方メートル未満ということになっておりますので、現状の認識では掛川市の公共施設面積はだいぶ多いということで認識しております。

206	桜が丘中学校区	3	再配置の方向性	交通手段			統合・複合化は大変良い方法ですが、その場所まで行く方法（インフラ）はどのように考えますか。	場合によっては、施設が現在の場所よりも皆様のご自宅から遠くなるようなケースも出てくるのかなと思います。そういう場合には、移動手段のない子供達や高齢者の方々が行きづらくなるという可能性もございます。 これについては、当然色々な手段の確保というのが重要なテーマになってまいります。一例を申し上げますと、スクールバス等が朝夕運行する場合に昼間の空いた時間に高齢者の方にご利用いただくようなことを検討しながら、移動手段の確保に努めていきたいと思っています。
207	桜が丘中学校区	4	再配置の方向性	計画の見直し			再配置計画が長期になりすぎているか。	50年の長期計画でございますので、計画自体は10年間のスパンで社会経済情勢等を鑑みながら修正・変更をしております。その際には、もちろん地元の皆様、地域、それから利用される関係の方々ともご相談をさせていただきたいと思っております。 また、人口の関係につきましては、当然人口の増減により施設の利用状況等も変更があると思います。大切な視点だと思っておりますので、その時点で再度検討していきたいと思っております。
208	桜が丘中学校区	5	再配置の方向性	小中学校の再編			人口問題の推移ですが、2040年目標人口を12万人と設定しているが、1期10年の間に再配置計画された物件について、増減があった場合は、どう変更していくのか。人口増加した場合、小学校は仮校舎（プレハブ等）が必要でないか。	本計画については、50年という非常に長い計画期間になりますので、10年ごとに社会経済情勢や市民ニーズの変化、それから進捗状況等を考慮して見直しをしていくということでございます。
209	桜が丘中学校区	6	再配置の方向性	防災			統廃合時の各小中学校が持っている、大規模災害時の避難所機能の検討に触れていないが、どのように考えているのか。	非常にそれぞれの地域にとって大切な視点だと思っております。災害時の避難所機能というのは当然今回の統合や複合化という中にもこの機能は確実に検討していかなければならないと考えておりますので、その際にはもちろん地域の皆様とご相談させていただきながら、機能のことを考えていきたいと思っております。
210	桜が丘中学校区	7	再配置の方向性	官民連携の推進			統廃合時に、団地などの施設の民間譲渡はあるのか。早い時期に民間の活力を入れた方がいいのではないのでしょうか。	不要となりました施設や土地については、譲渡・売却ということで考えていきたいと考えております。その際には、地域の皆様ともご相談させていただきますけれども、民間譲渡を考えていきたいと思っております。
211	桜が丘中学校区	8	再配置の方向性	目標設定	根拠		この計画でいくら削減されるのか。	今回、今後50年間で掛川市が施設維持、再整備する費用は2034億円を見込んでおります。2034億円に対しまして、掛川市が用意できる、充てられる財源は430億円ということでございまして、試算上は1604億円が不足するという事になってまいります。そのため今回25%の面積削減というものを示したわけでございますが、いくら削減されるかというご質問に対しては、およそ1600億円の削減をしていきたいということでご理解をいただければと思います。
212	桜が丘中学校区	9	再配置の方向性	その他			施設の耐用年数は60年？自治会所有の公民館はどうなる？耐用年数は60年ですか？	RC、鉄筋、それから鉄骨非木造は60年、木造は30年と今回設定をさせていただいております。それぞれの構造と言いますか、造りによって耐用年数というのは変わってくるということでご理解をいただきたいと思います。

213	桜が丘中学校区	10	再配置の方向性	財源不足		国や地方の税制を変えて、必要な費用を捻出することは考えられませんか。国や地方の税収を地方に厚くすることにより、解決できる面は多くあると思います。	地方の税財源のご質問ですけれども、皆様ご存知だと思いますけれども、国全体の税のうち約6割が国の財源、4割が地方の財源と言われておりまして、逆に支出の方はおよそ6割が地方の支出というようなことがありますので、そういったところの税財源のいびつさを是正していく必要があると思っております。もちろんこれは、国や県のこともありますので、全国市長会等を通じて要望をしていきたいと思っております。
214	桜が丘中学校区	11	再配置の方向性	個別施設		ゆうゆうパークが令和2年度に一部建設が行われるという情報がありますが、いかがですか。防災関連の施設が建設されるニュースがあります。	ゆうゆうパークにつきましては、今年度・来年度におきまして防災公園としての整備、例えば地下式の調整池を造ることや、釜戸ベンチ、防災あずまやを造る等、そのような計画になっておりますので、よろしくお願いいたします。
215	桜が丘中学校区	12	再配置の方向性	その他		インフラに関して、現状維持とのことだが、今後市道の新設は全く行わないという理解で良いか。	道路のインフラにつきましては、現在、維持更新までに必要となっている予算の範囲内で、適正管理に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
216	桜が丘中学校区	13	再配置の方向性	個別施設		学習センターや学童保育所などが、学校施設との共用化が計画されているようだが、教育委員会として、日常的に地域住民や一般人が学校内（校舎内）に入ってくることに同意が得られているか。	先程、三重県の亀山市と松阪市の学校の様子についての説明がありましたけれども、そういった子供だけの生活場所としての学校ではなくて、地域の皆様も利用できるような学校施設ということで、施設の複合化という話になりますけれども、全国的にそういったのを含む複合化された学校施設が今後できるということで、色々な地域や自治体で静岡県内の他の自治体でも検討しているところでございます。もう既に磐田市等もそういった学校を造るということでございます。今後そういった学校がいろいろなところでできてくるのではないかなと思います。同意が得られているかということで、これは危機管理の面でご心配いただいているものと思うのですが、そういった部分をしっかり定めて、行き来ができるような状況にしていきたいと思っておりますし、安全管理上、当然問題が無いようにセキュリティの面、そういったことについても、その時の一番最善が尽くせるような状況で建築していきたいと考えております。

217	桜が丘中学校区	14	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的		和田岡小と原谷小の統合はあるのか。	<p>この2つの学校ですが、和田岡小にしても原谷小にしても、いわゆる我々は小規模校という言い方をしております。1学年に1学級しかない学校のことです。6年生までで言いますと6学級ということになります。そのような小学校が掛川市に全部で小学校22校あるのですが、そのうちの半分の11校が、和田岡小、原谷小のように1学年1学級しかない学校でございます。掛川市の22校の小学校の半分が今すでにそういった状態になっております。これは今の状況ですが、令和元年度、これが今の0歳児が小学校に入る頃令和7年度になりますと13校に増えます。このような状況で、少子高齢化の中で子供の数が減るという中でそういった状況になります。</p> <p>今後ですが、学校再編を進めている中に今のご質問あった和田岡小と原谷小との統合があるかということですが、どこの学校ということも含めて適正規模・適正配置の考えの基に統合していくということを考えて検討しております。その時、先程申し上げましたが基本的には現状の中学校区をベースに考えております。教育委員会としては考えておりますが、ただ、財政的なもの、それから地域性のもの、色々な視点からご意見を今後いただく中で、その9中学校区が多少崩れた形で統廃合していくということも全く無いわけではございません。なので、色々な角度から検討を今後していくところであります。</p> <p>もう一つ補足しておきますと、掛川市は今現在ですが小中一貫教育校を造ろうということで、今、原野谷学園と南部の城東学園の2つの中学校区で小中一貫教育のカリキュラム研究をやっていて、いわゆるソフト面です。どういう教育をしていくかということの研究をして、3年間の研究が今終わったところで、その内容を全ての中学校区に広めて将来的には全ての中学校区に小中一貫校を造っていきたいということを教育委員会としては考えております。ですから、先程ご質問ありました市内全体の小中学校の再編の中で、できる限り現状の9つの中学校区単位で小中一貫校ができればということで検討しております。</p>
218	桜が丘中学校区	15	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的		和田岡小と桜木小が再編された場合、建築場所はどこにするのか？和田岡小と原谷小の再編はあるのか。もし再編するのであれば、地域の中央にしてほしい。	<p>先程と同様に再編するかまだ検討中なので申し上げられないのですが、色々な課題も出てくるかと思います。当然、場所についてもバスを使うにしろ、本人になるにしろ、自転車に乗る人もなるべく通いやすい、それと子供の安全・安心というのが第一と思うわけですが、そこも含めながら検討をしていくと考えております。</p>
219	桜が丘中学校区	16	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的		原谷小、原田小、原野谷中、和田岡小、桜木小、桜が丘中をすべて小中一貫でやるのは可能か。	<p>先程申し上げましたように基本的には、地域性が多少異なってくると地域の方々もやりづらさというのはあるかもしれませんので、基本的には今のところ各中学校区単位で考えております。原野谷中学校区と桜が丘中学校区、全部一緒にした場合、子供の数だけで大体1000人を超えます。私どもは国からの指導もございまして、適正規模・適正配置という考えの基に学級編制を行っています。1000人を超えると大きくなりすぎてしまって望ましい指導としては、教員側の立場になりますけれども、非常に厳しいものもあるのではないかと思います。そうやって考えると、現時点ではこの原野谷中学校区と桜が丘中学校区、全部合わせてということは少し考えにくいと言えます。それなりの場所の確保、そういったものも必要になってくるだろうし、案としては考えられないことでもないかもしれませんが、現状としては中学校区単位で今のところは進めてまいりたいと思っております。</p>

220	桜が丘中学校区	17	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係		学校の再編について、学区（地域や人数）等の再考はするのか。市内では、地域によって人数の差があり、今のままでは活性化できない地域も出てくるのではないか。	学区の見直しということについては、学区の見直しをしていく案もございます。先程申し上げたように中学校区はそのままの現状維持というところを考えている案もございます。今後、来年度策定委員会開きますので、そういった中で色々ご意見をいただきながら、最終的には市民の皆様からもご意見いただきながら決定していきたいと思っております。
221	桜が丘中学校区	18	再配置の方向性	小中学校の再編	通学		小中学校の再配置について、小中一貫校を9学区で目指しているのか。その場合、遠い地域からの交通の便はどうなるのか。	中学校区を基本に検討いたしますが、学区を見直す可能性もございます。遠距離からの登校の手段として、公共交通の活用やスクールバスを運用することも検討させていただきます。
222	桜が丘中学校区	19	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み		小中学校の統廃合計画について、現状はどうなっているのか教えてほしい。	現在、教育委員会内に新たな学園づくり研究会を設けて、市長部局と連携しながら調査・研究を進めてまいります。この研究成果を基に来年度、学校再編計画策定委員会を組織して計画を策定していく予定であります。
223	桜が丘中学校区	20	再配置の方向性	小中学校の再編	検討の進め方		学校の統廃合はどのような手順を考えていますか。（どの程度進んでいますか。）一部の中学校区だけでなく、全市規模でデザインしていただきたい。	現在の進捗状況としましては、教育委員会で学校全体の小中学校の再編について計画を立てました。それが昨年度になります。それを基に今年度新たな学園づくり検討委員会という大学の有識者の方も入れた、教育委員会だけではなく市長部局の職員も入れ、関係する課の方が入りまして研究会を設けて検討をしているところでございます。つまり、教育委員会の中で考えるのではなくて、色々な立場の方も含めて色々な視点から検討を進めております。来年度、案が決まったところで、これは来年度になりますけれど、再編計画案について皆様にも知っていただいて、市民の皆様からご意見をいただきながら、さらに進めていくということになるわけですが、来年度、学校再編計画の策定委員会を立ち上げる予定でおります。状況としてはそういったところです。 市内全体を見てデザインをということなのですが、今現在ですが中学校区は9つありまして、9つの学園ということで掛川市は言っておりますので、次のご質問の中でも小中一貫教育は9中学校区で目指しているのかということですが、基本的には9中学校区で検討を進めております。中学校区9つございますが、小中学校の数で言いますと全てで31校になります。小学校・中学校合わせて市内31校、中学校が9校、小学校が22校ございます。それら全ての学校について見直しを図っていくことを基本としております。そうやって再編をしていきますと通学の距離が延びてしまう、そういったご心配があると思います。再編をしていきますと、遠い地域等の交通の便はどうなるのかということだと思っておりますが、これは遠い場所だと歩いても自転車でも通えないというケースが出てくると思います。そういった場合は、交通手段としては公共交通の活用できるところでは、スクールバスを用意して子供達の登下校ができるようなところも考えております。
224	桜が丘中学校区	21	説明会	説明内容	事例		紹介事例があった小中学校では、地域住民の施設利用度はどれくらい向上していますか。遠くなったとの声はありませんか。	紹介させていただいた三重県の小中学校については、円滑な利用が図られていると聞いております。また施設が遠くなると、車がない子供や高齢者に不便になると思いますので、掛川市でもスクールバスでの対応やそのスクールバスが路線バスを兼ねること等も検討していきたいと考えております。利用度がどのくらいというのが今ちょっと数字を持っておりませんので、また改めてホームページ上で、これについてお答えさせていただきたいと思っております。



225	桜が丘中学校区	22	再配置の方向性	跡地・空き施設			再配置計画の目標は建物に関することであるが、土地等の民間への払い下げによる負担軽減の考えはあるか。	現時点では、譲渡・売却を図ることを基本に考えております。ただし、それについても地域の皆様とご相談させていただきながら慎重に検討していきたいと思っています。
226	桜が丘中学校区	23	再配置の方向性	個別施設	ふくし館		和田岡ふくし館はⅡ期廃止を検討とあるが、廃止後、現在のふくし館での活動はどうなるのか。	学習センターや小中学校等、地域ごとに必要とする施設につきましては、集約して地域の拠点とすることを今現在考えております。和田岡ふくし館は、対応年数があと20年です。安全に利用できるいただける間にご活用をいただき、安全に使えなくなった時点で廃止の方向を現時点では考えております。その際、そのまま必要な機能については、小中学校再編とともに集約する施設の中に入れていくかどうか、地域の皆様に利用者の皆様と協議をして検討していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
227	桜が丘中学校区	24	再配置の方向性	個別施設	ふくし館		和田岡ふくし館が廃止された場合、代わりになる建物を造るのか。	
228	桜が丘中学校区	25	再配置の方向性	個別施設	ふくし館		廃止検討（和田岡ふくし館）となる施設は、どのような基準に基づくのですか。地域の要望により、現在よりも賑わい、利用が高まるとか、別目的（防災など）の場合は、再検討されるようお願いしたい。	
229	桜が丘中学校区	26	検討の進め方	市民意見	合意形成		地域学習センター、小学校、学童保育所については、地域ごとに統合・複合化を検討するとあるが、具体的な進め方はどうするかを教えてください。	学校再編の枠組みの検討と並行して、それぞれの地域に関係する皆様と協議をし検討していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
230	桜が丘中学校区	27	説明会	説明内容			中学校区だけでなく、全体に関する施設は？	資料4の黄色のところです。資料4の3つの考え方で説明させていただきました。黄色の用途別の部分は市が施設の設置かつ運営に関与することが必要であると考えられる施設でありますので、いわゆる本当に全市的に配置検討をしていきたいと思っております。
231	桜が丘中学校区	28	説明会	運営			本質問カードへの返答に対し、再質問、再返答はあるのか。無い場合、せめて再質問用紙の提出とホームページ等での回答はできないか。	再質問用紙につきましては、本日の用紙でご提出をいただければと思います。また、用紙が不足する場合には、申し訳ありませんが係の方におっしゃっていただければと思います。それからホームページ等での回答はできないかというご質問ですが、ホームページ等も今回9中学校区への説明会が終わりますので、全ての回答をホームページの方に掲載させていただく予定でおりますので、よろしくお願いいたします。

232	桜が丘中学校区	29	再配置の方向性	目標設定	根拠	<p>今後50年間で延べ床面積を25%縮減（目標）とありましたが、人口減少のことを含めての縮減でしょうか。人口増加を今後見込んでいるのであれば、縮減しすぎではないでしょうか。</p>	<p>人口動態を含め、試算をさせていただいております。先程申し上げていますように長期の計画でありますので、今後計画については、社会経済情勢の変動等を見据えながら、10年ごとに計画の見直しを考えていきたいと思っております。</p>
233	桜が丘中学校区	30	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと	機能	<p>公共施設の用途を固定的に考えないで、全ての公共施設に本来用途とは別に、コミュニティの場、災害時の避難所、同物資・人員・情報の集散基地、文化行事や市民の諸活動のスペース等の機能があると考えますが、施設の廃止、統合（縮小）、売却の検討時に、こういった面からの検討はなされているか。</p>	<p>コミュニティの場、災害時の拠点という点も大事な機能であると考えております。こういった点も含めて検討して、今回素案という形でご説明をさせていただいております。一番大事なのは、地域の皆様とこういった機能やご要望について、ご相談をすることだと考えております。個別の案件を進めていく際には、関係の皆様とよくご相談させていただきたいと思っております。</p>